

蓮田市障がい者福祉に関する
アンケート調査結果報告書
【概要版】

令和5年8月
蓮田市

目次

■ 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象者及び回収結果	1
3. 調査方法と実施期間	1
4. 分析・表示について	1
■ 障害者手帳等所持者への調査結果の概要	2
1. 住まいや暮らしについて	2
2. 日常生活について	3
3. 健康と医療について	5
4. 障がいに対する理解について	6
5. 情報や相談について	7
7. 就労について	8
8. 災害時の対応について	10
9. 障がい福祉サービスについて	12
10. 蓮田市の障がい者施策等について	13
■ 障害者手帳等所持者（障がい児）への調査結果の概要	16
1. お子さんの障がいや発達課題に気づいたきっかけ等について	16
2. 通園・通学について	17
3. 障害児福祉サービスについて	18
4. 保護者の方自身が、特に支援して欲しいことについて	19
■ その他の市民への調査結果の概要	20
1. 障がいのある方への関心等について	20
2. 障がいのある方の人権等について	22
3. 障がいへの理解等について	23
4. ボランティアについて	25
5. 災害時の対応について	26
6. まちづくりについて	27

■ 調査概要

1. 調査の目的

「蓮田市障がい者基本計画」及び「蓮田市障がい福祉計画」の基礎資料とするため、各種調査を実施しました。

本調査は、蓮田市の障がい者等に対して、障がい者の現状、障がい福祉サービス等の利用状況、周知度及び今後の利用意向、現状での問題点や課題事項等を把握し、障がい者施策の推進と障がい者基本計画及び障がい福祉計画策定のため、基礎資料とすることを目的として実施しています。

2. 調査対象者及び回収結果

調査区分	対象	配布数	回収数	回収率
①障害者手帳等所持者への調査	障害者手帳等を所持している方	2,600	1,525	58.7%
②その他の市民への調査	蓮田市在住の 18 歳以上の市民	1,000	440	44.0%

3. 調査方法と実施期間

調査方法：郵送配布、郵送回収

実施期間：令和 5 年 6 月 23 日～令和 5 年 7 月 31 日

4. 分析・表示について

- 1) 比率は、小数点以下第 2 位を四捨五入しています。このため比率が 0.05 未満の場合には 0.0 と表記しています。また、合計が 100.0%とならないこともあります。
- 2) 複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。このため、比率計が 100%を超えることがあります。
- 3) グラフ中の(n=〇〇)という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。
- 4) 障がい別のクロス集計において、「全体」とは、調査対象者全員を意味します。また、「重複(3障がい)」は、複数の障害者手帳をお持ちの方、「難病その他」は医療受給者証のみをお持ちの方を意味します。
- 5) 障がい別のクロス集計については、不明者(無回答者)は集計していません。このため障がい別の回答者数の合計は、全体の回答者数と一致しません。

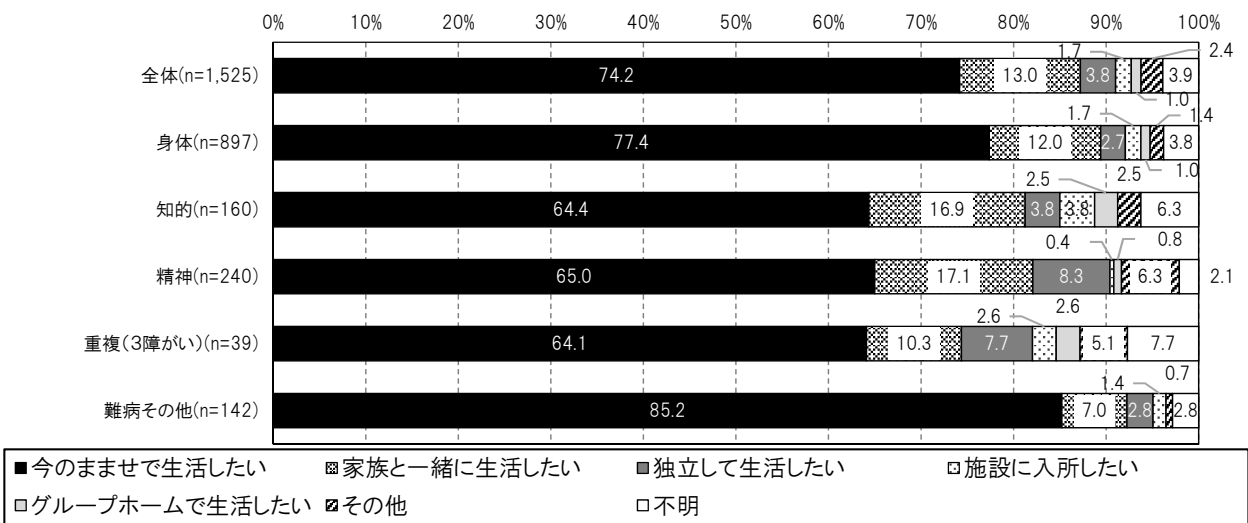
■ 障害者手帳等所持者への調査結果の概要

1. 住まいや暮らしについて

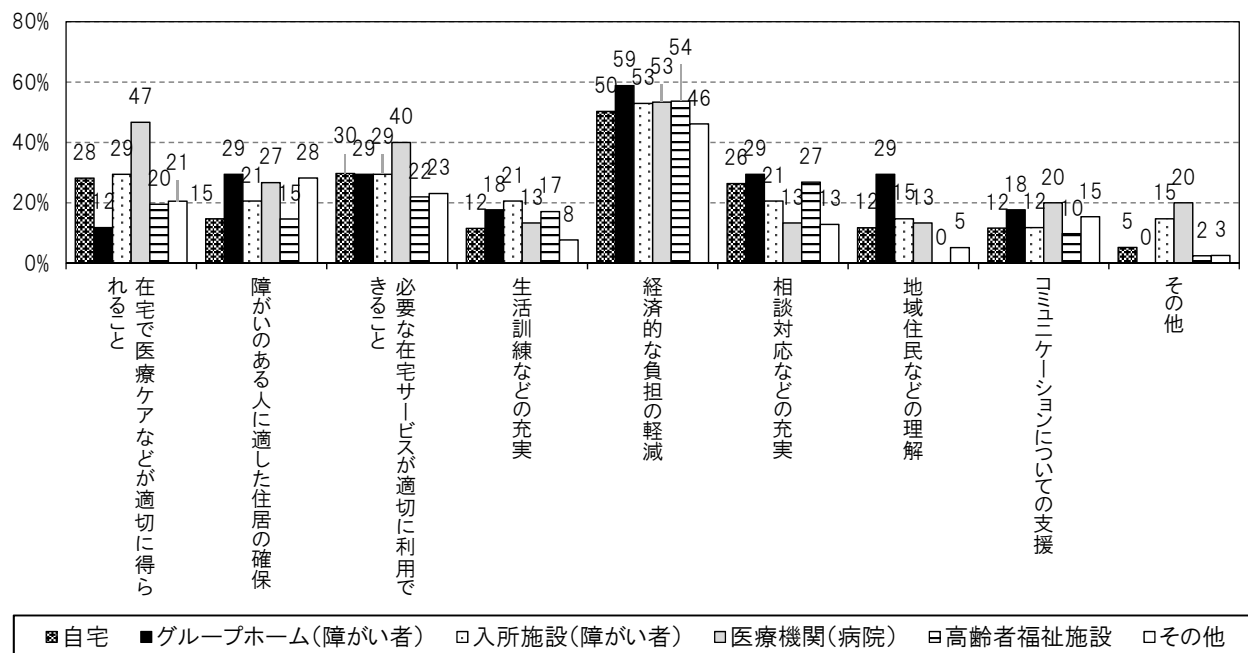
今後3年以内にどのように暮らしたいかについて、全体では7割以上の方は「今のままで生活したい」と回答していますが、知的障がい者、精神障がい者の2割弱の方は「家族と一緒に生活したい」と回答しており、精神障がい者、重複障がい者の1割弱の方は「独立して生活したい」と回答しています。

希望する暮らしを送るために必要な支援としては、「経済的な負担の軽減」が多くなっていますが、医療機関（病院）が生活の場となっている方では、「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」や「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が4割以上と多くなっています。

【今後3年以内にどのように暮らしたいか】



【希望する暮らしを送るために必要な支援】

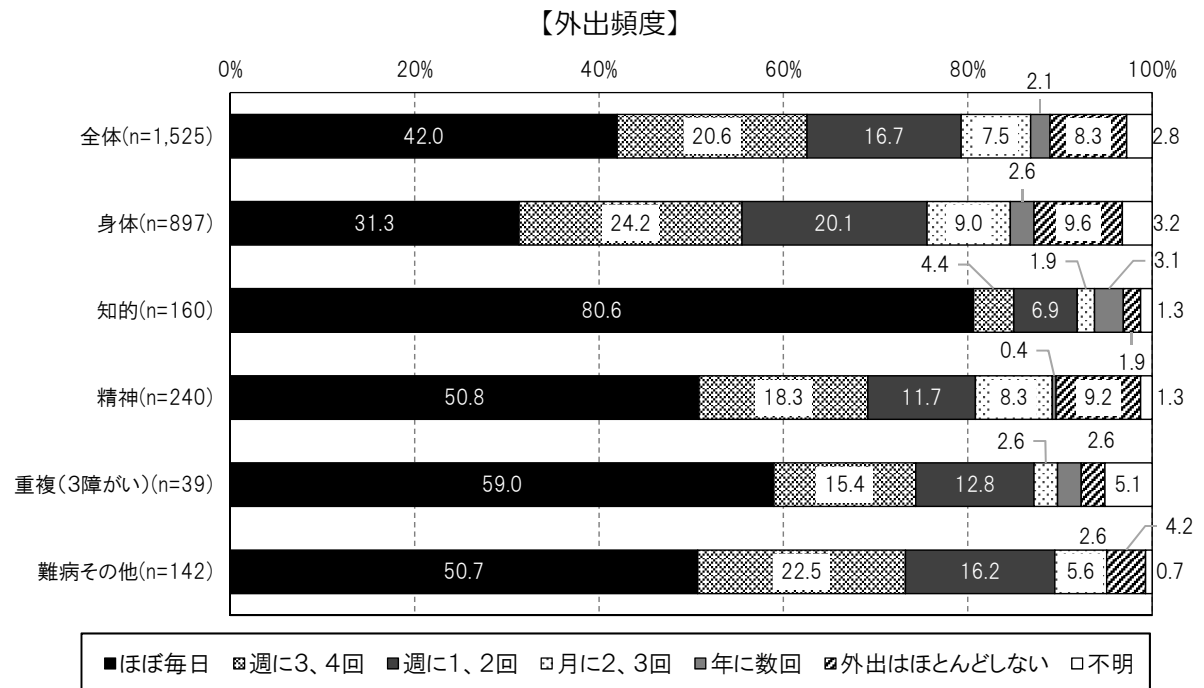


2. 日常生活について

1) 外出について

外出の頻度は、全体では6割以上の方が「週に3、4回以上」外出していますが、1割弱の方は「ほとんど外出しない」と回答しており、身体障がい者や精神障がい者で多い傾向が見られます。

外出する時に困ることでは、身体障がい者では、「道路や駅に階段や段差が多い」、知的障がい者では「困ったときにどうすればいいのか心配」、精神障がい者では「外出にお金がかかる」が最も多くなっています。全体では「困ったときにどうすればいいのか心配」が最も多く、次いで「外出にお金がかかる」が多くなっています。



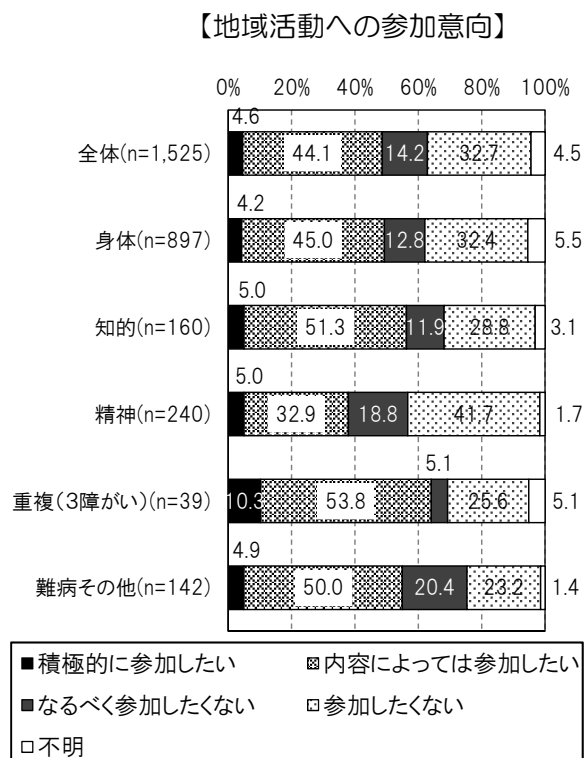
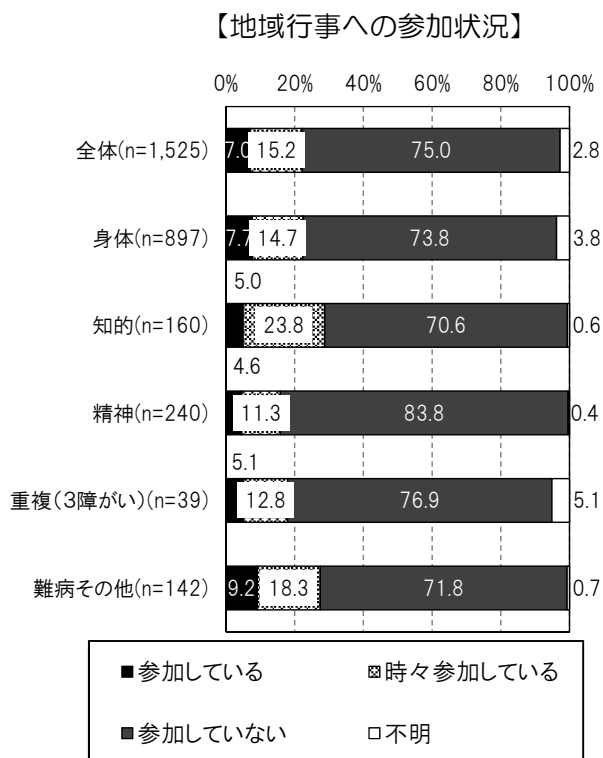
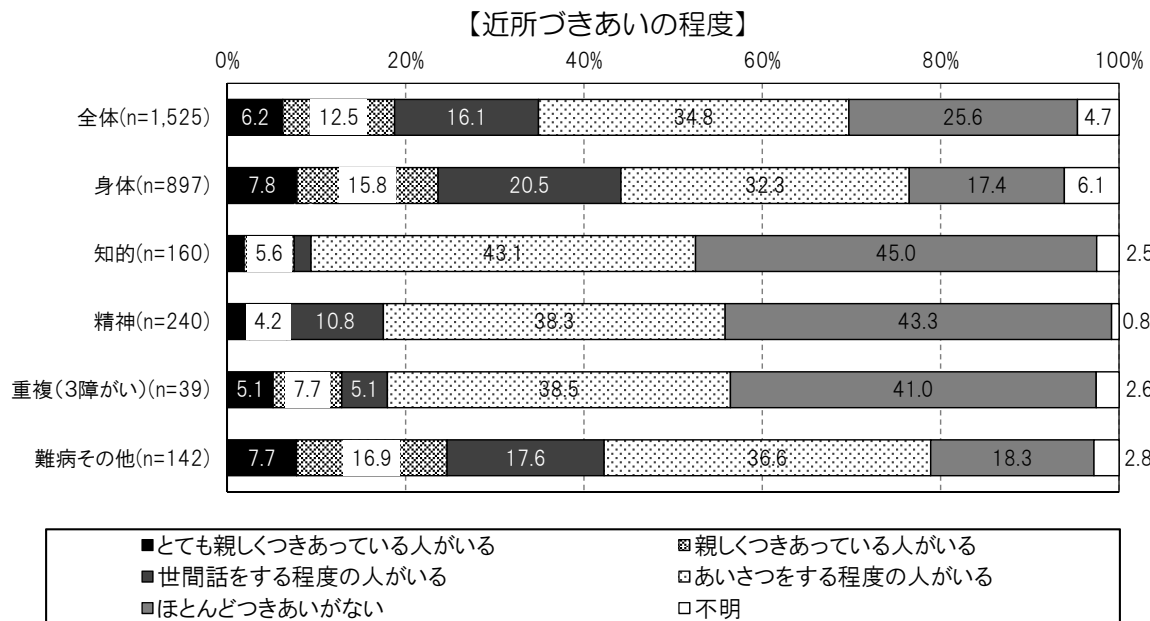
【外出する時に困ること】

	はない	公共交通機関が少ない、また 法がわかりにくい	切符の買い方や乗り換えの方 (通路、トイレなど)	外出先の建物の設備が不便	視覚障がい者用の信号機、点 字ブロックなどの設備が少ない	用できない	障がい者駐車場が少ない、利 用できない	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	介助者が確保できない	外出にお金がかかる	案内表示がわかりにくい	周囲からどう思われているか 気になる	心配	発作など突然の身体の変化が 心配	困ったときにどうすればいいの か心配	その他	不明
全体 (n=1,525)	16.7	4.6	8.9	1.4	9.5	12.5	17.2	6.0	18.1	3.0	7.6	17.3	21.0	15.8	16.6			
身体 (n=897)	18.5	3.2	11.0	2.1	13.4	15.3	22.6	6.5	13.2	2.7	3.2	15.5	16.9	14.6	18.3			
知的 (n=160)	9.4	15.0	5.6	0.6	3.1	9.4	2.5	8.8	20.6	5.6	12.5	10.6	43.8	8.1	16.3			
精神 (n=240)	17.9	4.6	3.8	0.4	1.3	4.2	5.8	3.8	37.5	2.5	22.9	29.2	29.2	17.9	10.0			
重複(3障がい) (n=39)	10.3	10.3	17.9	0.0	20.5	25.6	33.3	10.3	25.6	5.1	12.8	20.5	17.9	17.9	10.3			
難病その他 (n=142)	16.2	1.4	5.6	0.0	4.9	7.7	13.4	0.7	14.8	2.1	2.1	16.2	8.5	26.8	16.9			

2) 地域でのつきあいについて

地域の人とのつきあいでは、全体では約7割の方は「あいさつをする程度以上」のつきあいをしています。障がい別では、知的障がい者、精神障がい者、重複障がい者では「ほとんどつきあいががない」が4割以上と多くなっています。

地域の行事やイベントへの参加状況については、全体では参加している割合は2割強となっています。一方、地域活動への今後の参加意向では、全体では約5割の方が「参加したい」と回答しています。



3. 健康と医療について

健康管理や医療で困ったり不便に思うことについて、全体では「医療費の負担が大きい」が19.3%と最も多く、次いで「交通費の負担が大きい」が15.5%となっています。

障がい別では、精神障がい者において、「医療費の負担が大きい」「交通費の負担が大きい」がそれぞれ全体より10ポイント以上多くなっており、重複障がい者では、「専門的な治療を行う医療機関がない」「往診を頼める医師がいない」「適切な医療機関を受診するための情報が不足している」が全体に比べ多くなっています。

また、難病その他の者においても「医療費の負担が大きい」が全体に比べ多くなっています。

【健康管理や医療で困ったり不便に思うこと】

(単位：%)

	近所に診てくれる医師がいない	専門的な治療を行う医療機関がない	通院や健康診断のときに付き添いがいない	往診を頼める医師がいない	定期的に健康診断を受けられない	症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	受診手続きなどについて、難病や障がいのある方への配慮が不十分	医療スタッフ(医師、看護師など)の難病・障がいに対する理解が不十分	建物内の設備(トイレや移動設備、案内など)に不備がある	医療費の負担が大きい	交通費の負担が大きい	医療について相談できる場所が少ない	適切な医療機関を受診するための情報が不足している	その他	特に困ったり不便に思うことはない
全体 (n=1,525)	13.8	13.2	3.8	10.4	2.8	5.4	5.3	5.6	4.3	19.3	15.5	12.1	14.4	5.4	36.5
身体 (n=897)	12.2	12.0	3.8	12.0	2.5	3.0	4.2	4.1	5.9	15.4	12.9	9.9	13.2	5.1	38.8
知的 (n=160)	12.5	13.1	3.1	5.0	6.3	14.4	8.8	11.3	1.3	3.1	5.6	12.5	20.6	4.4	40.6
精神 (n=240)	19.6	14.6	5.4	8.3	3.3	10.4	4.6	5.4	0.8	33.8	31.7	20.8	15.0	6.7	27.1
重複(3障がい) (n=39)	15.4	28.2	10.3	23.1	2.6	15.4	7.7	10.3	12.8	15.4	15.4	20.5	23.1	10.3	33.3
難病その他 (n=142)	16.9	14.8	0.0	7.0	0.0	1.4	10.6	9.2	1.4	39.4	15.5	9.9	10.6	4.2	32.4

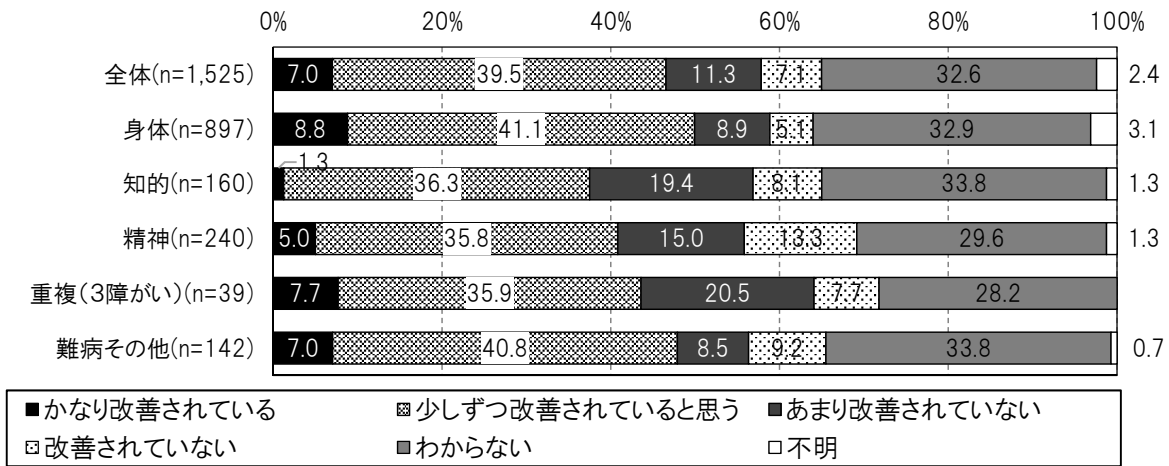
※最も割合が多い障がい種別に着色

4. 障がいに対する理解について

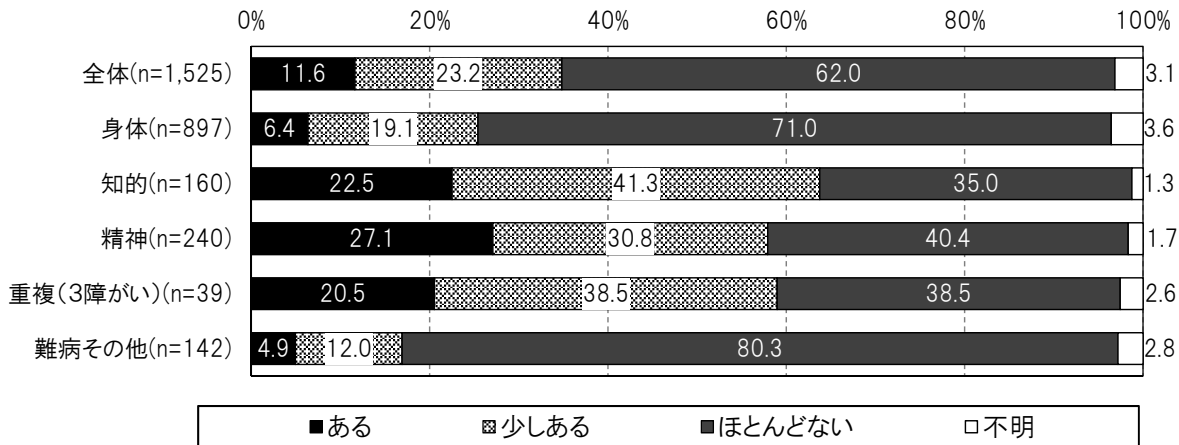
5～10年前に比べ、「障がいのある方に対する差別や偏見が改善されていると思う割合」については、全体では46.5%の方が「改善されている（かなり＋少しずつ）」と回答していますが、知的障がい者では、「かなり改善されている」割合が少なくなっています。

「障がいがあることで差別・偏見を受けたことがある割合」では、全体では3割強で「ある（ある＋少しある）」となっており、知的障がい者で6割以上、精神障がい者、重複障がい者でも6割弱と多くなっています。どのような場面で差別・偏見を受けたかについては、知的障がい者では「保育所・幼稚園や学校」、精神障がい者、難病その他の者では「仕事や収入」、重複障がい者では「公共の場での人の視線」が5割を超えて多くなっています。

【5～10年前と比べて、障がいのある方に対する差別や偏見は改善されているか】



【障がいがあることで差別・偏見を受けたことがあるか】



【どのような場面で差別・偏見を受けたか】

(単位：%)	仕事や収入	園や学校 保育所・幼稚	進路の選択	きあい 隣近所とのつ	冠婚葬祭	味の活動	スポーツや趣 や集まり	地域の行事	人の視線	公共の場での 人の視線	応や態度	店などでの対 員の対応や	市役所の職 員の対応	公共機関の 職員の対応	利用	交通機関の	その他
全体(n=531)	35.0	20.5	10.0	18.5	3.6	8.1	8.7	30.3	16.8	10.2	8.3	12.4	10.7				
身体(n=228)	29.4	8.8	9.6	17.5	2.6	9.2	9.2	33.8	14.5	9.2	6.1	14.9	9.6				
知的(n=102)	16.7	57.8	13.7	10.8	4.9	5.9	9.8	34.3	22.5	4.9	7.8	6.9	8.8				
精神(n=139)	59.7	15.1	7.9	25.9	4.3	6.5	6.5	20.9	12.2	15.1	12.2	10.8	13.7				
重複(3障がい)(n=23)	13.0	26.1	17.4	13.0	0.0	13.0	17.4	52.2	39.1	0.0	4.3	26.1	21.7				
難病その他(n=24)	54.2	4.2	0.0	16.7	4.2	8.3	0.0	12.5	16.7	12.5	16.7	4.2	8.3				

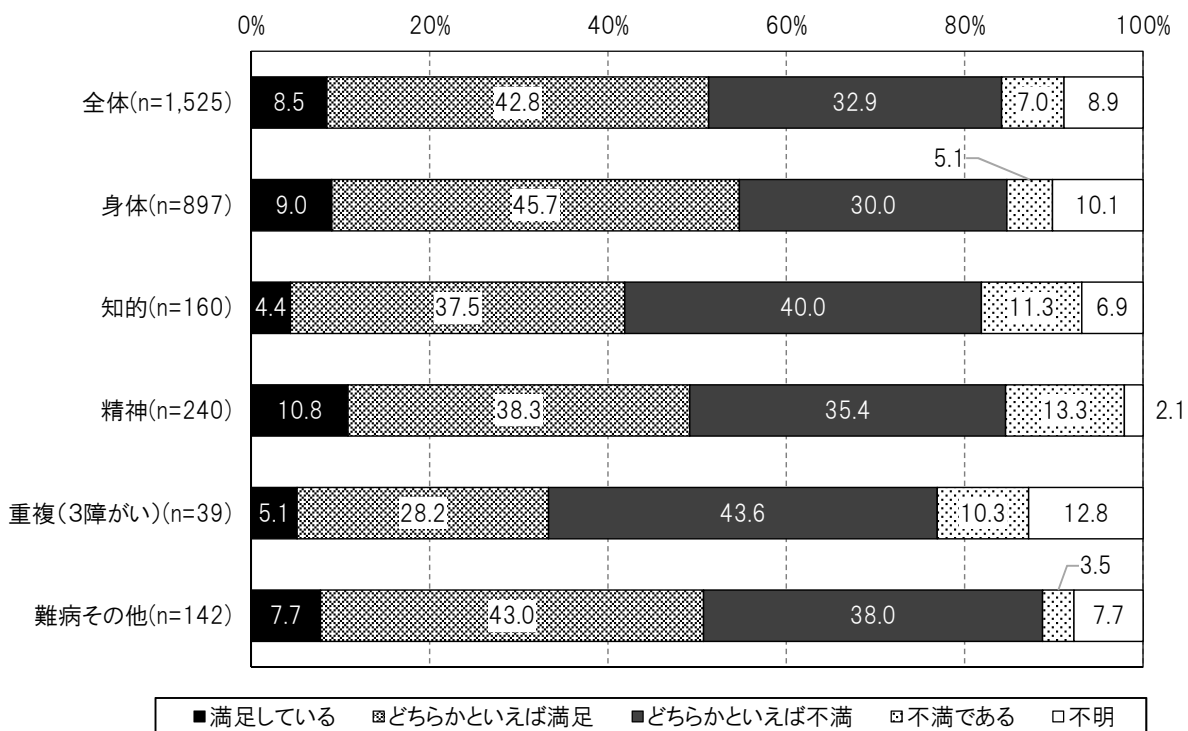
5. 情報や相談について

福祉に関する情報の満足度について、全体では「満足している（どちらかといえばを含む）」が約5割、「不満である（どちらかといえばを含む）」が約4割となっています。

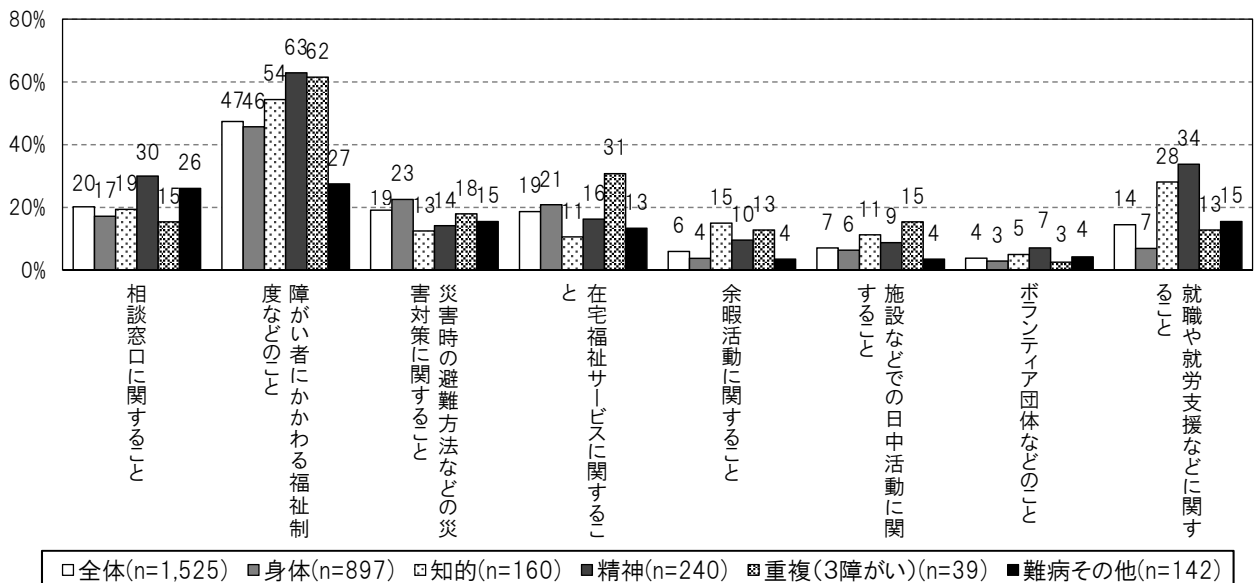
障がい別で見ると、重複障がい者で「満足している（どちらかといえばを含む）」割合が少なくなっています。

どのような情報が知りたいかについては、「障がい者にかかわる福祉制度などのこと」が全ての障がい種別で最も多くなっていますが、重複障がい者では、「在宅福祉サービスに関すること」、知的障がい者、精神障がい者では「就職や就労支援などに関すること」の割合が多くなっています。

【福祉に関する情報について満足しているか】



【生活に関することで、どのような情報を知りたいか】



7. 就労について

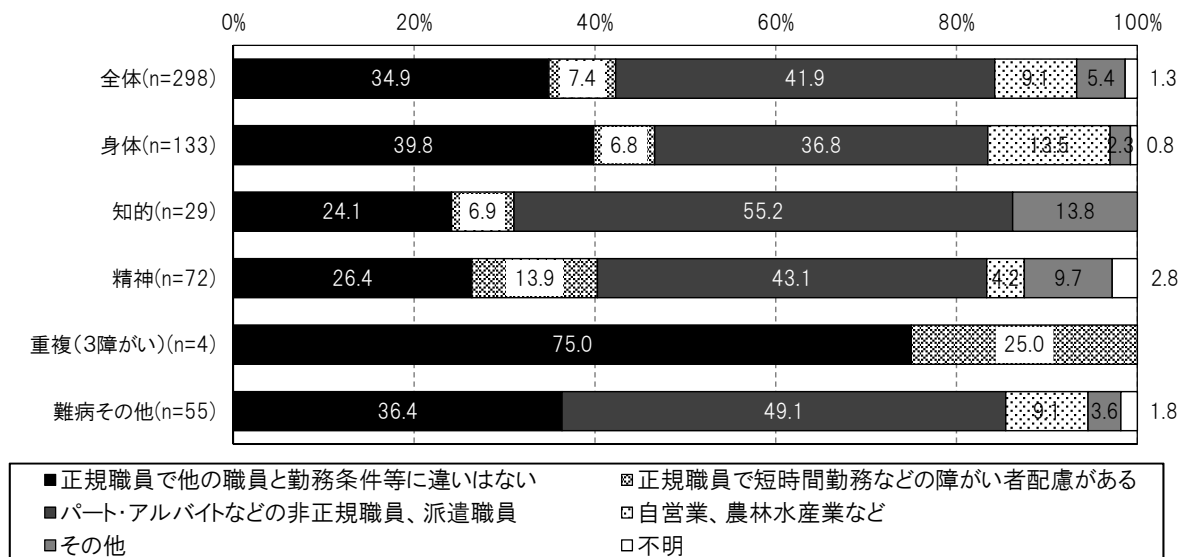
「会社勤めや、自営業などで収入を得る仕事をしている」方の勤務形態について、全体では「正規職員」が約4割、「パート、アルバイトなど」が約4割、「自営業」が約1割となっています。

仕事をする上で困っていることでは、全ての障がい種別において「給料が少ない」が最も多くなっていますが、特に知的障がい者、精神障がい者、重複障がい者において多くなっています。

「会社勤めや、自営業などで収入を得る仕事をしていない」方で18～64歳の方の今後の就労意向については、全体では約3割が「今後収入を得る仕事をしたい」と考えおり、希望する勤務形態としては、全体では「正規職員」が3割強、「臨時、日雇い、パート、嘱託等」が2割弱となっています。

障がい者の就労支援として必要なことでは、知的障がい者や精神障がい者では「職場の上司や同僚に障がいの理解あること」、また、「勤務時間や日数が体調に合わせて変更できる」も精神障がい者で多くなっています。

【「会社勤めや、自営業などで収入を得る仕事をしている」方の勤務形態】

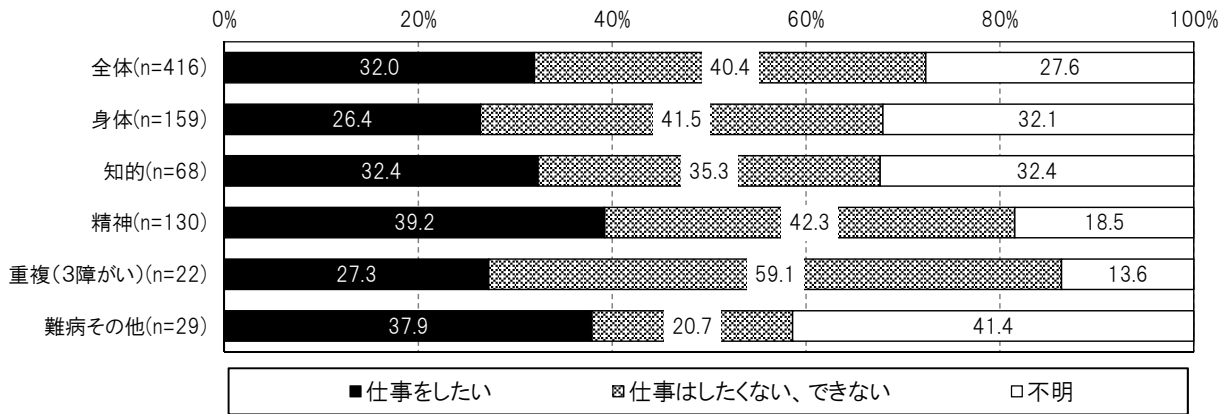


【仕事をする上で困っていること】

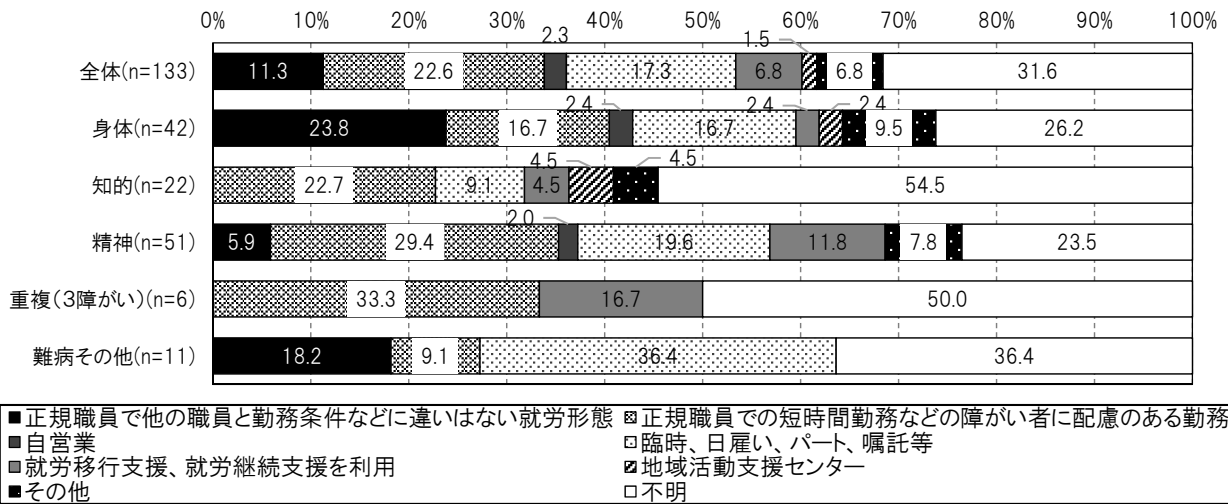
(単位：%)

	給料が少ない	仕事の内容が難しい	身分が不安定	人間関係が難しい	トイレなど障がいのある方用の設備が不十分	職場に障がいのある方用の設備や機器がない	障がいがあるために昇給や昇進に差がある	通勤が大変	休みがとりにくい	障がいに対する理解がない	その他	困っているとは言いにくい
全体(n=298)	38.3	5.7	13.1	18.8	3.0	2.0	12.8	12.1	9.4	11.1	6.4	27.2
身体(n=133)	27.8	1.5	7.5	12.8	5.3	2.3	5.3	11.3	8.3	8.3	4.5	38.3
知的(n=29)	48.3	10.3	13.8	31.0	0.0	0.0	31.0	3.4	6.9	3.4	13.8	24.1
精神(n=72)	59.7	11.1	26.4	29.2	1.4	1.4	25.0	16.7	12.5	22.2	6.9	8.3
重複(3障がい)(n=4)	50.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
難病その他(n=55)	30.9	7.3	9.1	12.7	0.0	1.8	3.6	10.9	10.9	7.3	5.5	29.1

【収入を得る仕事をしていない18～64歳の方の今後の就労意向】



【収入を得る仕事をしていない18～64歳の方の希望する勤務形態】



【障がい者の就労支援として必要なこと】

(単位：%)

	通勤手段の確保	通勤先におけるバリアフリーなどの配慮	短時間勤務や勤務日数の配慮	勤務時間や日数が体調に合わせて変更できる	在宅勤務の充実	職場の上司や同僚に障がいの理解があること	職場で介助や援助が受けられること	通院時間の確保や服薬管理などへの配慮	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外の相談対応、支援	その他
全体(n=1,525)	16.3	9.0	16.9	21.2	12.7	26.8	10.7	6.0	10.0	4.7	6.9	3.3
身体(n=897)	14.7	11.4	12.5	14.9	11.4	18.7	8.2	5.2	4.3	3.8	4.6	3.8
知的(n=160)	25.0	4.4	15.0	21.3	5.6	51.3	27.5	5.0	29.4	5.6	16.9	1.3
精神(n=240)	13.8	2.1	34.2	43.8	22.5	45.0	6.3	9.6	17.9	7.9	12.1	5.4
重複(3障がい)(n=39)	33.3	12.8	15.4	12.8	5.1	28.2	30.8	12.8	15.4	0.0	5.1	0.0
難病その他(n=142)	18.3	10.6	19.7	31.0	15.5	26.8	9.9	6.3	10.6	4.9	3.5	0.7

8. 災害時の対応について

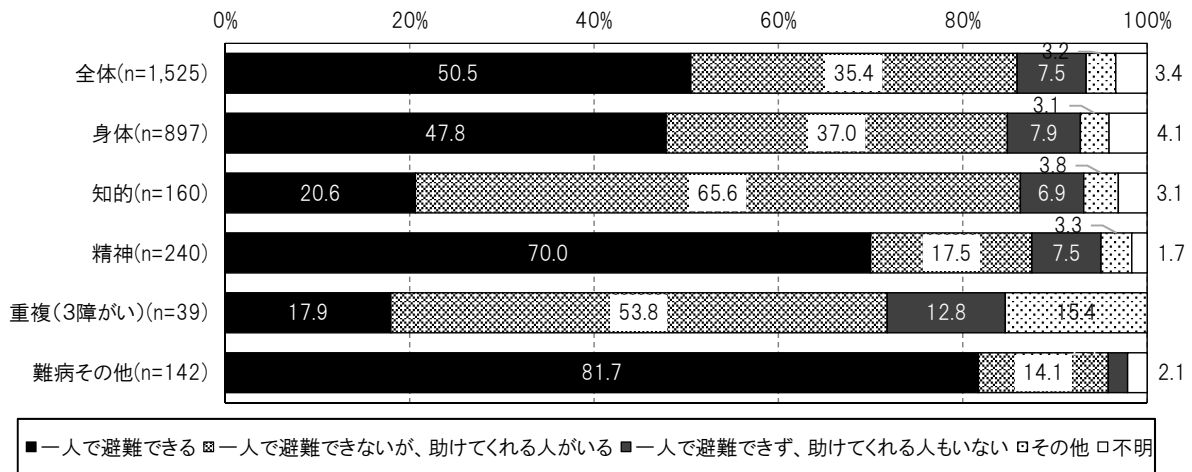
火事や地震、豪雨等の災害時の避難について、「一人で避難できず、助けてくれる人もいない」が全体で7.5%あります。

災害時に困ることでは、「投薬や治療が受けられない」が、精神障がい者、難病その他の者で6割を超えて多く、「安全なところまで迅速に避難することができない」が、重複障がい者において約7割と多くなっています。

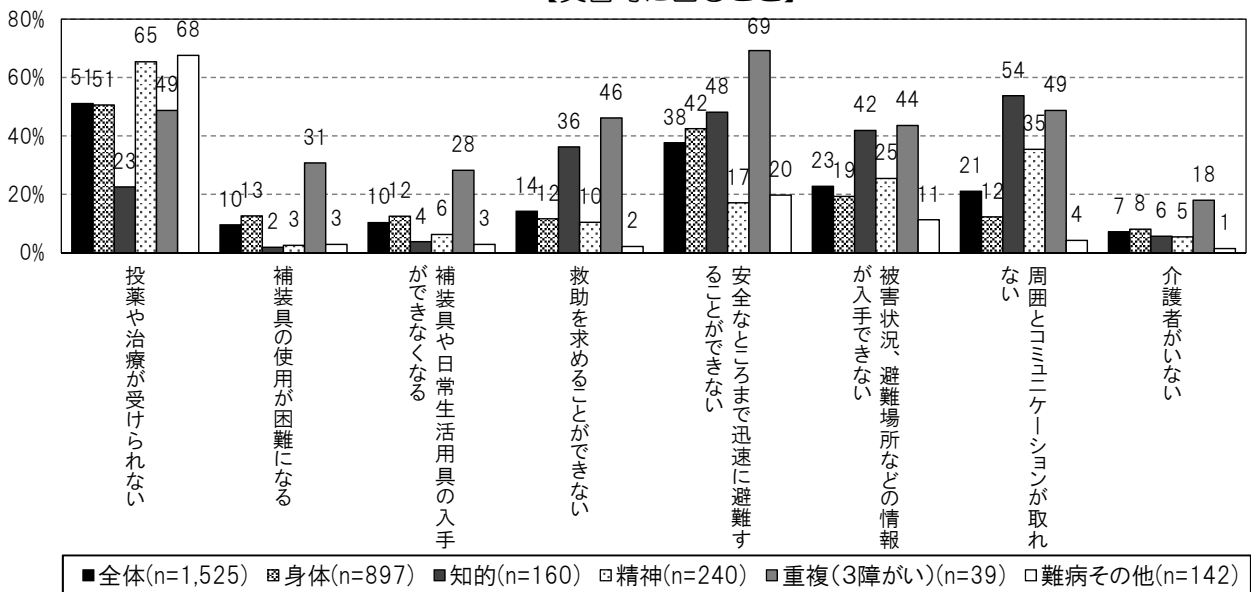
また、避難所での生活で困ることでは、知的障がい者では「情報の入手や意思疎通が難しいこと」、精神障がい者では「プライバシーが守られていないこと」、重複障がい者では「移動や歩行が困難であること」がそれぞれ5割以上と多くなっています。

避難行動支援制度における個人情報提供の同意については、全体では「同意している」が14.9%、「今後同意したい」が23.9%、「同意するつもりはない」が9.9%、「わからない」が45.1%となっています。

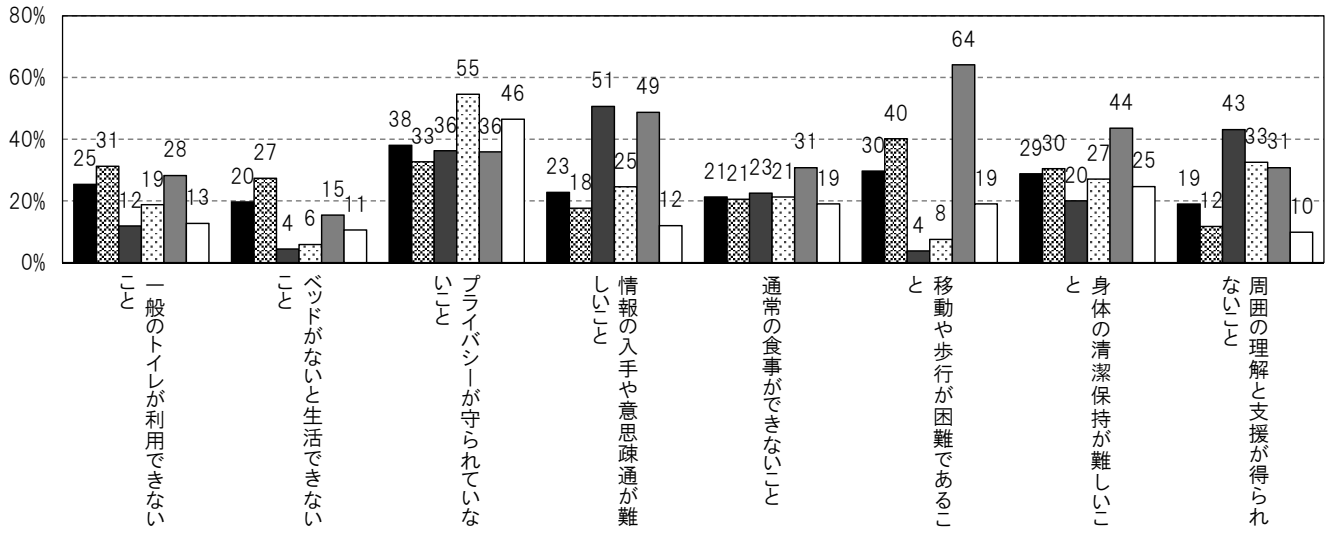
【火事や地震、豪雨等の災害時に、一人で避難できるか】



【災害時に困ること】

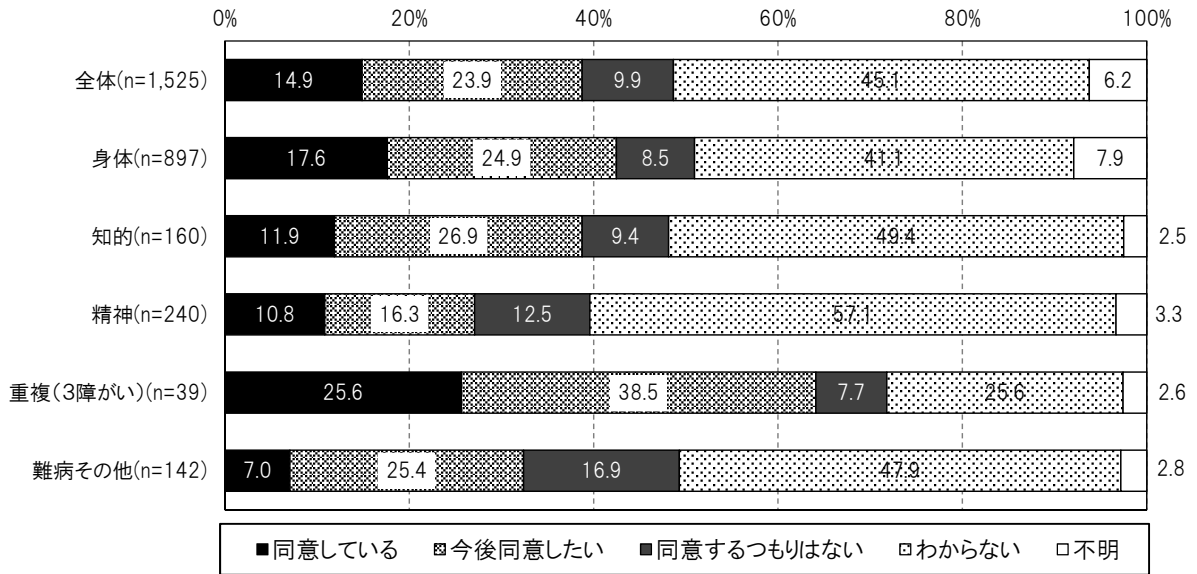


【避難所での生活で困ること】



■全体(n=1,525) ■身体(n=897) ■知的(n=160) ■精神(n=240) ■重複(3障がい)(n=39) □難病その他(n=142)

【避難行動支援制度における個人情報の提供への同意】



■同意している ■今後同意したい ■同意するつもりはない □わからない □不明

9. 障がい福祉サービスについて

全体でみると、内容の認知度については、①居宅介護、⑦短期入所、⑳訪問入浴サービスが3割以上と高くなっています。利用状況については、⑩計画相談支援、㉑日常生活用具給付・貸与サービスの利用が多くなっています。今後の利用予定については、すべてのサービスにおいて利用中の人数を上回っています。福祉サービスの見込量を算定する際など、利用者ニーズを反映させるとともに、サービス提供体制を確保していく必要があると考えられます。

【障がい福祉サービスの認知度等について】

(単位：%)

	全体 (n=1,525)					身体 (n=897)			知的 (n=160)			精神 (n=240)			重複 (3障がい) (n=39)			難病その他 (n=142)		
	内容 認知	利用中 (%) (人)		利用予定 (%) (人)		内容 認知	利用 中	利用 予定	内容 認知	利用 中	利用 予定	内容 認知	利用 中	利用 予定	内容 認知	利用 中	利用 予定	内容 認知	利用 中	利用 予定
①居宅介護	36.8	4.4	67	10.0	152	39.5	5.9	11.8	29.4	0.6	5.6	35.8	4.2	10.0	35.9	2.6	12.8	35.9	1.4	4.9
②重度訪問介護	23.2	0.5	8	4.5	68	24.4	0.9	5.9	20.0	0.0	1.9	22.1	0.0	2.1	33.3	0.0	10.3	22.5	0.0	2.1
③同行援護	16.7	0.6	9	4.8	73	17.3	0.8	5.5	13.8	0.6	2.5	18.8	0.4	6.3	30.8	0.0	2.6	11.3	0.0	2.1
④行動援護	15.7	0.9	13	5.1	78	15.6	0.4	5.1	20.0	5.0	10.6	15.0	0.0	4.2	33.3	2.6	7.7	10.6	0.0	0.7
⑤重度障害者等包括支援	15.0	0.8	12	4.9	75	16.4	1.2	6.5	10.6	0.0	2.5	12.9	0.0	2.9	28.2	2.6	10.3	12.7	0.0	0.7
⑥施設入所支援	28.1	3.9	59	7.3	112	28.3	3.8	8.7	29.4	5.6	8.8	27.9	3.8	3.3	41.0	10.3	12.8	26.1	1.4	3.5
⑦短期入所	30.0	2.7	41	7.0	107	30.7	2.9	8.0	37.5	5.0	10.6	26.7	0.8	2.9	43.6	10.3	25.6	26.1	0.7	0.7
⑧療養介護	19.6	0.9	13	3.6	55	20.2	1.2	5.2	14.4	0.6	1.9	20.0	0.0	1.3	28.2	0.0	2.6	21.1	0.7	0.7
⑨生活介護	25.4	3.1	48	6.6	100	24.7	2.9	7.6	27.5	6.9	8.8	27.1	0.8	3.3	35.9	17.9	12.8	26.1	0.7	1.4
⑩自立生活援助	22.3	2.4	37	6.5	99	21.9	1.3	5.7	17.5	2.5	6.3	28.8	7.5	12.5	25.6	2.6	7.7	21.8	1.4	2.8
⑪共同生活援助 (グループホーム)	27.5	1.4	22	3.9	60	25.1	0.9	3.6	37.5	4.4	8.8	32.9	2.1	3.8	48.7	2.6	7.7	21.8	0.0	0.7
⑫自立訓練 (機能訓練、生活訓練)	24.8	3.5	53	7.0	106	23.0	3.8	7.6	26.3	3.1	6.3	32.1	3.8	7.5	38.5	2.6	12.8	21.8	2.8	2.8
⑬就労移行支援	21.5	1.2	18	4.5	69	14.6	0.7	2.5	29.4	1.9	5.6	43.8	3.3	12.1	43.6	2.6	7.7	15.5	0.0	2.8
⑭就労継続支援 (A型、B型)	19.6	2.8	43	5.6	85	11.1	0.1	2.1	37.5	13.1	13.1	43.8	6.7	14.6	43.6	12.8	12.8	10.6	0.0	2.1
⑮就労定着支援	13.2	2.2	33	5.3	81	9.1	0.2	2.0	18.8	7.5	13.8	25.0	7.1	14.2	30.8	2.6	7.7	9.9	0.0	2.1
⑯計画相談支援	16.8	9.2	141	11.7	179	13.3	5.0	8.5	38.1	38.8	31.9	18.8	9.2	16.3	30.8	28.2	25.6	10.6	0.0	1.4
⑰地域移行支援	7.1	0.4	6	4.1	63	6.9	0.2	3.9	5.0	0.6	4.4	7.9	1.3	6.3	12.8	0.0	10.3	7.7	0.0	1.4
⑱地域定着支援	6.9	0.3	5	5.0	76	6.5	0.0	4.3	6.3	0.6	6.9	8.3	1.7	8.8	12.8	0.0	10.3	7.0	0.0	0.7
⑲手話通訳者派遣事業	12.5	0.5	8	1.0	16	12.8	0.9	1.8	8.8	0.0	0.0	14.6	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	9.9	0.0	0.0
⑳日常生活用具給付・ 貸与サービス	22.6	6.2	95	10.2	156	28.3	9.1	14.7	10.6	0.0	1.9	16.3	0.4	2.5	30.8	17.9	25.6	13.4	1.4	1.4
㉑移動支援サービス	19.0	2.9	44	8.1	124	18.2	2.7	8.6	30.0	7.5	13.1	17.9	1.3	5.8	35.9	12.8	20.5	13.4	0.0	1.4
㉒訪問入浴サービス	31.1	1.4	21	4.3	66	33.1	1.8	6.2	24.4	0.6	0.6	30.0	0.0	1.3	41.0	7.7	5.1	31.0	0.7	2.8
㉓日中一時支援サービス	15.8	1.6	25	5.9	90	15.6	1.2	6.6	19.4	3.8	8.1	13.8	1.3	5.4	30.8	10.3	10.3	15.5	0.7	0.7
㉔自動車運転免許取得費 の助成	10.8	0.3	5	2.7	41	11.9	0.6	1.8	6.9	0.0	3.1	10.0	0.0	7.1	25.6	0.0	2.6	7.0	0.0	0.7
㉕自動車改造費の助成	15.3	0.8	12	2.7	41	18.4	1.3	3.5	7.5	0.0	0.6	12.5	0.0	2.1	25.6	0.0	0.0	9.9	0.0	1.4

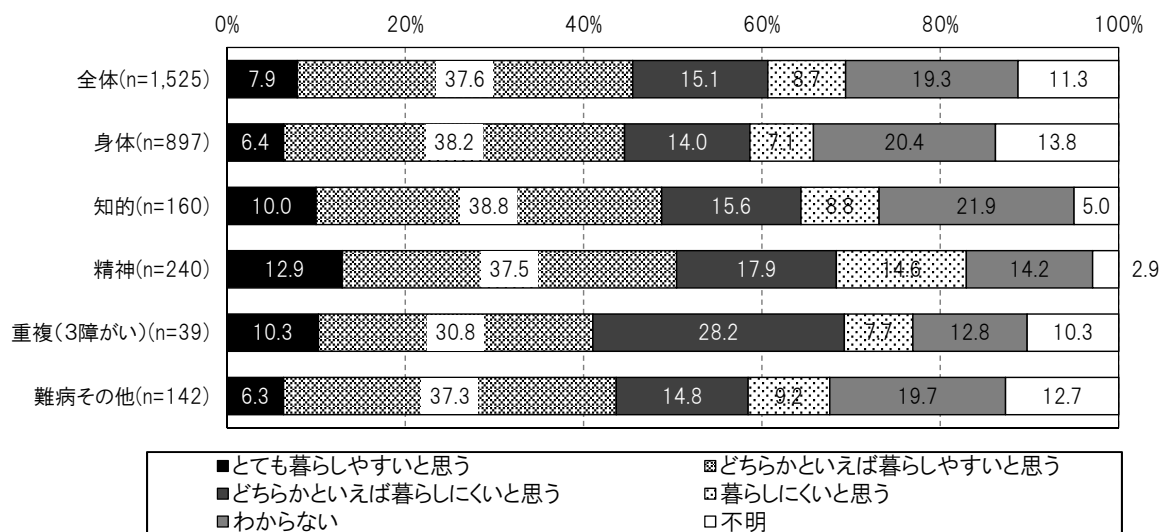
10. 蓮田市の障がい者施策等について

1) 暮らしやすさについて

蓮田市の暮らしやすさについて、全体では4割強の方が「暮らしやすいと思う（とても＋どちらかといえば）」、2割強の方が「暮らしにくいと思う（どちらかといえばを含む）」、約3割の方が「わからない又は無回答」となっています。

「暮らしにくいと思う（どちらかといえばを含む）」と回答された方が考える暮らしにくい点については、身体障がい者では「交通機関が利用しにくい」、知的障がい者では「障がいのある方の働く場所がない」、精神障がい者では「生活費や医療費などにお金がかかる」、重複障がい者では「リハビリ施設が少ない」「通所できる施設が少ない」、難病その他の者では「生活費や医療費などにお金がかかる」がそれぞれ最も多くなっています。

【蓮田市は暮らしやすいと思うか】



【どういったところが暮らしにくいと感じるか】

	地域住民の理解や協力が ない	公共施設が利用しにくい	福祉施設・医療機関が 利用しにくい	交通機関が利用しにくい	段差や道幅の問題で外出し にくい	買物や外での食事が不便	在宅サービスが少ない	リハビリ施設が少ない	通所できる施設が少ない	相談できる施設が少ない	障がいのある方の働く場所が 少ない	生活費や医療費などにお金がかかる	その他
全体(n=364)	17.0	29.9	34.9	41.8	25.3	31.6	9.1	23.9	25.0	24.2	27.7	35.2	10.4
身体(n=190)	9.5	28.9	33.7	46.3	30.0	36.3	6.8	26.3	16.3	13.7	16.8	24.2	10.0
知的(n=39)	33.3	28.2	56.4	33.3	12.8	20.5	10.3	20.5	59.0	48.7	69.2	17.9	5.1
精神(n=78)	35.9	30.8	28.2	34.6	12.8	30.8	9.0	15.4	29.5	38.5	37.2	64.1	15.4
重複(3障がい)(n=14)	0.0	21.4	50.0	28.6	50.0	14.3	28.6	57.1	57.1	50.0	42.9	28.6	7.1
難病その他(n=34)	2.9	41.2	26.5	44.1	32.4	26.5	8.8	17.6	11.8	14.7	20.6	50.0	8.8

2) 障がい福祉サービスを利用しやすくするために必要なことについて

障がい福祉サービスを利用しやすくするために必要なことについて、全体では「どのようなサービスがあるのか詳しい情報を知りたい」や「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」が多くなっており、特に知的障がい者や精神障がい者における割合が多くなっています。

そのほかにも、「障がいの状態に応じた方法で情報を提供して欲しい」「必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい」では、知的障がい者、重複障がい者で4割を超えて多くっており、「自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい」では、精神障がい者、重複障がい者で4割を超えて多くなっています。

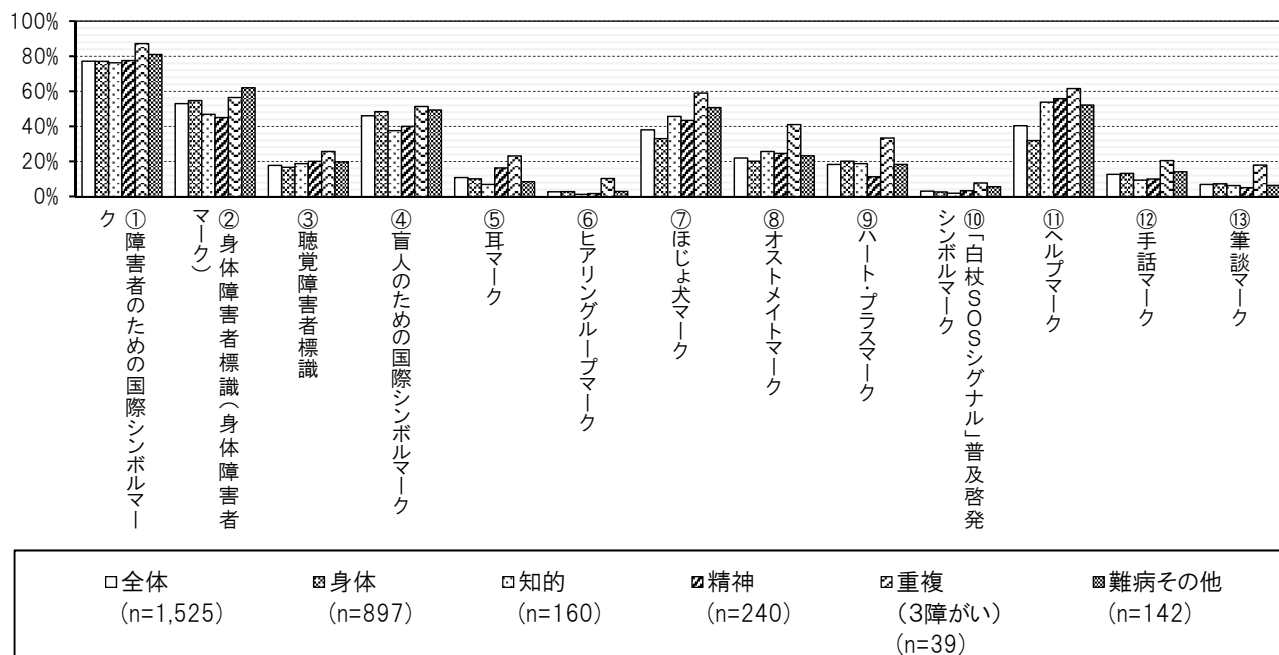
【障がい福祉サービスを利用しやすくするために必要なことについて】

(単位：%)

	どのようなサービスがあるのか詳しい情報を知りたい	申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい	障がいの状態に応じた方法で情報を提供してほしい	自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい	必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい	サービスの回数や時間を増やしてほしい	身近な場所で通所サービスが受けられるようにしてほしい	施設の職員などの、技術・知識を向上してほしい	ホームヘルパーなどの数を増やしてほしい	サービスの費用負担を軽減してほしい	自分に合った必要な福祉サービスがない	その他	特になし
全体(n=1,525)	47.0	34.7	30.0	28.8	30.0	9.9	13.8	10.1	6.1	18.4	8.4	2.6	12.2
身体(n=897)	42.9	31.0	26.1	24.0	26.0	9.3	11.1	7.4	6.5	15.7	5.2	2.2	13.8
知的(n=160)	54.4	41.3	45.0	35.0	43.1	12.5	25.0	22.5	4.4	23.8	9.4	3.1	8.8
精神(n=240)	57.9	45.4	39.2	45.0	33.3	12.9	15.0	14.2	6.7	22.9	18.8	3.8	11.3
重複(3障がい)(n=39)	46.2	43.6	53.8	43.6	48.7	10.3	35.9	17.9	7.7	25.6	20.5	12.8	5.1
難病その他(n=142)	49.3	31.7	19.7	23.9	31.7	7.0	10.6	5.6	3.5	20.4	7.7	0.0	12.0

3) 障がいのある方に関連するマークの認知度について

障がいのある方に関連するマークの認知度について、全体では「①障害者のための国際シンボルマーク」が8割弱と最も多く、次いで「②身体障害者標識(身体障害者マーク)」が約5割、「④盲人のための国際シンボルマーク」が4割強となっています。



3) 障がいのある方にとって暮らしやすいまちづくりのために希望することについて

障がいのある方にとって暮らしやすいまちづくりのために希望することは、全体では「何でも相談できる窓口を充実してほしい」が46.0%と最も多く、特に精神障がい者で多くなっています。

次いで多いものは「福祉に関する情報をわかりやすく提供してほしい」が42.0%となっています。知的障がい者においては、「障害のある人の働く場所を充実してほしい」が42.5%、重複障がい者においては「在宅で安心して生活するための福祉サービスを充実してほしい」が46.2%と多くなっています。

【障がいのある方にとって暮らしやすいまちづくりのために希望すること】

	何でも相談できる窓口を充実してほしい	福祉に関する情報をわかりやすく提供してほしい	情報のバリアフリー化（手話や音声など）を推進してほしい	保護や福祉に関わる専門的な人材を増やしてほしい	在宅で安心して生活するための福祉サービスを充実してほしい	医師や専門職員による訪問指導を充実してほしい	リハビリ、生活訓練などができる通所施設を充実してほしい	重度の障がいがある人のための入所施設を充実してほしい	障がいのある人に対する医療を充実してほしい	個性を伸ばす保育・教育を充実してほしい	障がいのある人の働く場所を充実してほしい	障がいのある人が集まり情報交換できる場を充実してほしい	電車やバスなどの公共交通機関のバリアフリー化を推進してほしい	道路・建物などのバリアフリー化を推進してほしい	利用しやすい公共施設の整備をしてほしい	グループホームの整備など、生活の場を充実してほしい	障がい者スポーツ教室などを充実してほしい	障がいのある人でも、ない人と一緒に通える文化教室などを充実してほしい	障がいのある人でも、ない人と一緒に楽しめるスポーツ教室などを充実してほしい	差別や偏見をなくするための教育や広報活動を充実してほしい
全体 (n=1,525)	46.0	42.0	6.2	16.1	27.5	11.0	15.5	10.3	17.4	6.0	17.8	8.2	14.2	15.3	11.2	8.3	5.0	5.6	6.7	17.2
身体 (n=897)	42.4	40.5	7.1	13.0	30.2	11.5	17.4	9.5	14.7	2.3	9.4	6.0	17.5	18.2	11.9	4.5	4.1	4.2	4.8	9.7
知的 (n=160)	50.0	41.9	3.8	18.8	15.6	5.0	15.0	21.9	16.9	20.0	42.5	15.0	5.6	3.8	11.3	33.8	15.0	14.4	22.5	38.8
精神 (n=240)	57.5	46.7	4.2	27.5	25.0	12.1	8.3	5.8	27.5	9.2	35.4	15.0	5.4	5.4	10.0	7.1	3.3	8.3	6.7	29.2
重複(3障がい) (n=39)	41.0	48.7	7.7	33.3	46.2	10.3	33.3	28.2	33.3	25.6	25.6	12.8	10.3	15.4	7.7	12.8	10.3	2.6	5.1	25.6
難病その他 (n=142)	50.0	43.7	5.6	11.3	21.1	12.7	12.7	5.6	16.9	4.9	11.3	3.5	18.3	27.5	10.6	4.9	2.1	0.7	3.5	19.0

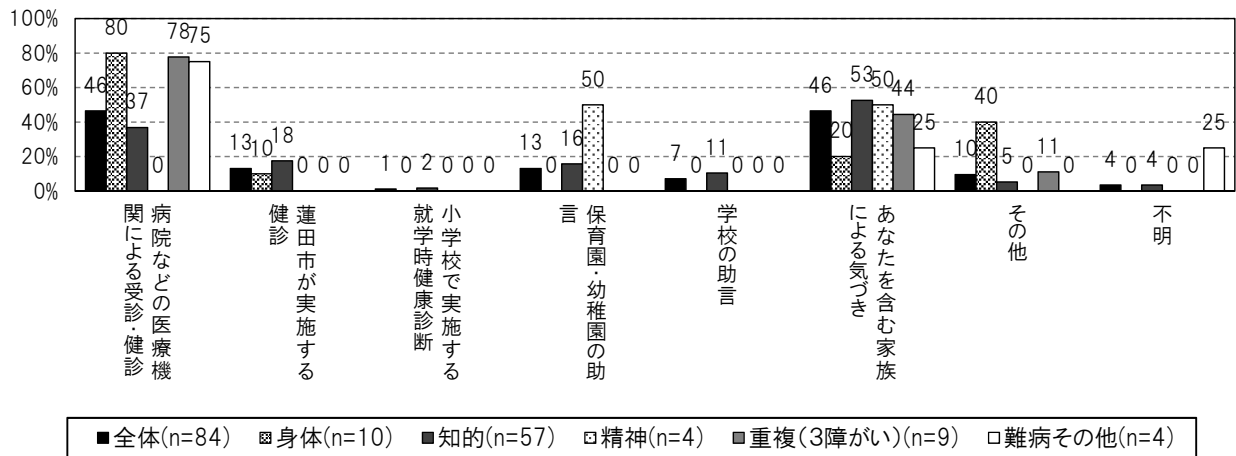
■ 障害者手帳等所持者（障がい児）への調査結果の概要

1. お子さんの障がいや発達課題に気づいたきっかけ等について

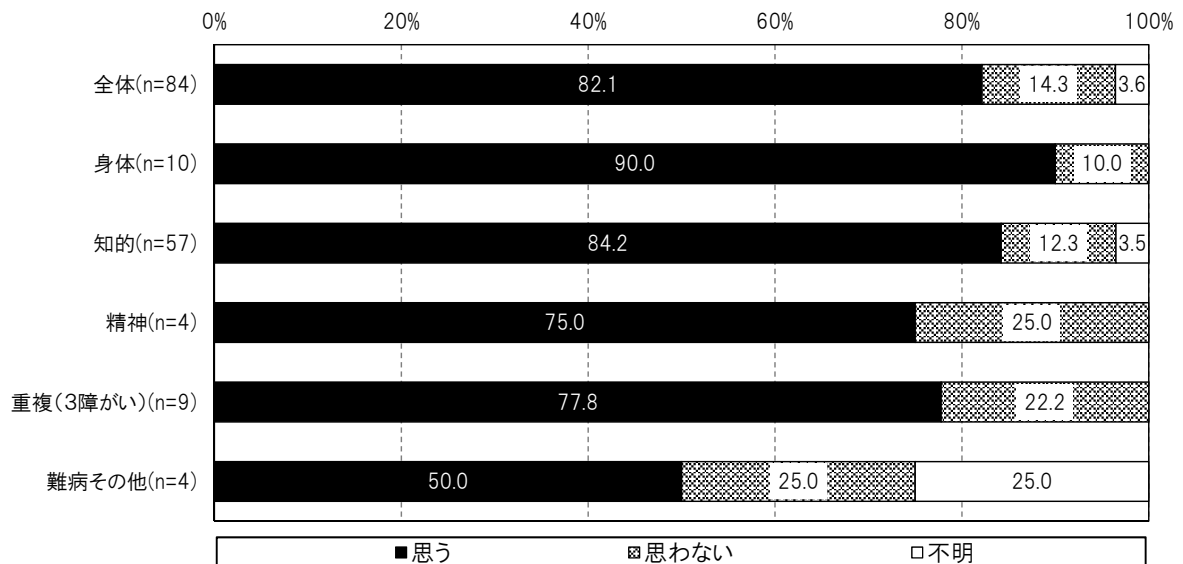
お子さんの障がいや発達課題に気づいたきっかけは、身体障がい児、重複障がい児、難病その他では「病院などの医療機関による受診」が7割を超えて多くなっています。知的障がい児では「あなたを含む家族による気づき」が5割以上、精神障がい児では「保育園・幼稚園の助言」「あなたを含む家族による気づき」が5割以上と多くなっています。

障がいや発達課題へ早く気づけたかについては、全体では「思う」が8割以上となっており、難病その他で5割と少なくなっています。

【お子さんの障がいや発達課題に気づいたきっかけ】



【お子さんの障がいや発達課題などには早く気づけたと思うか】

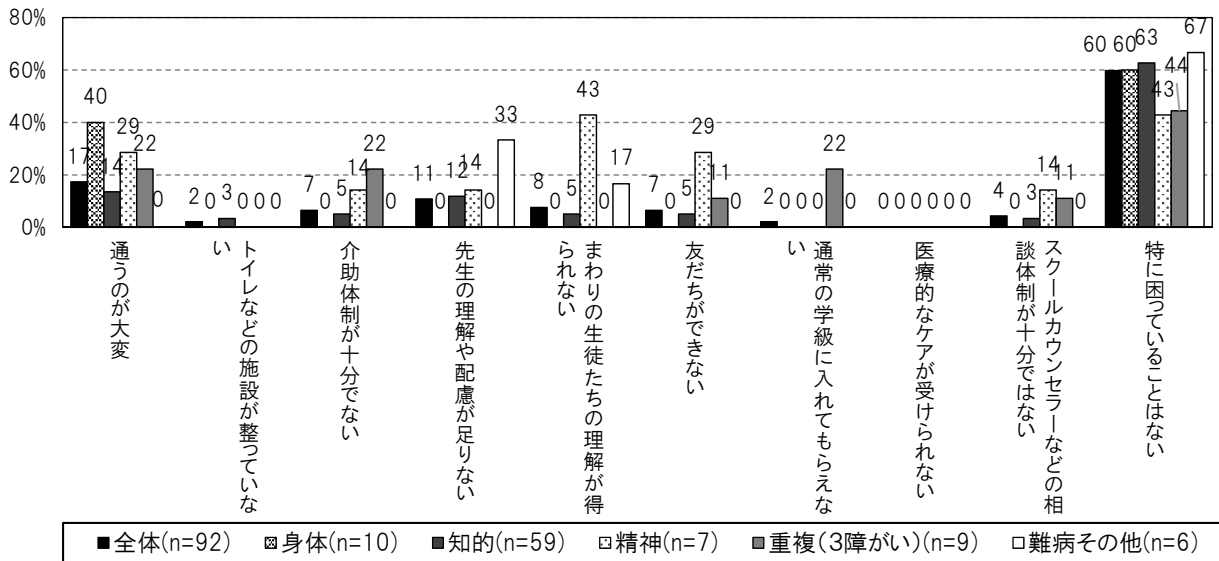


2. 通園・通学について

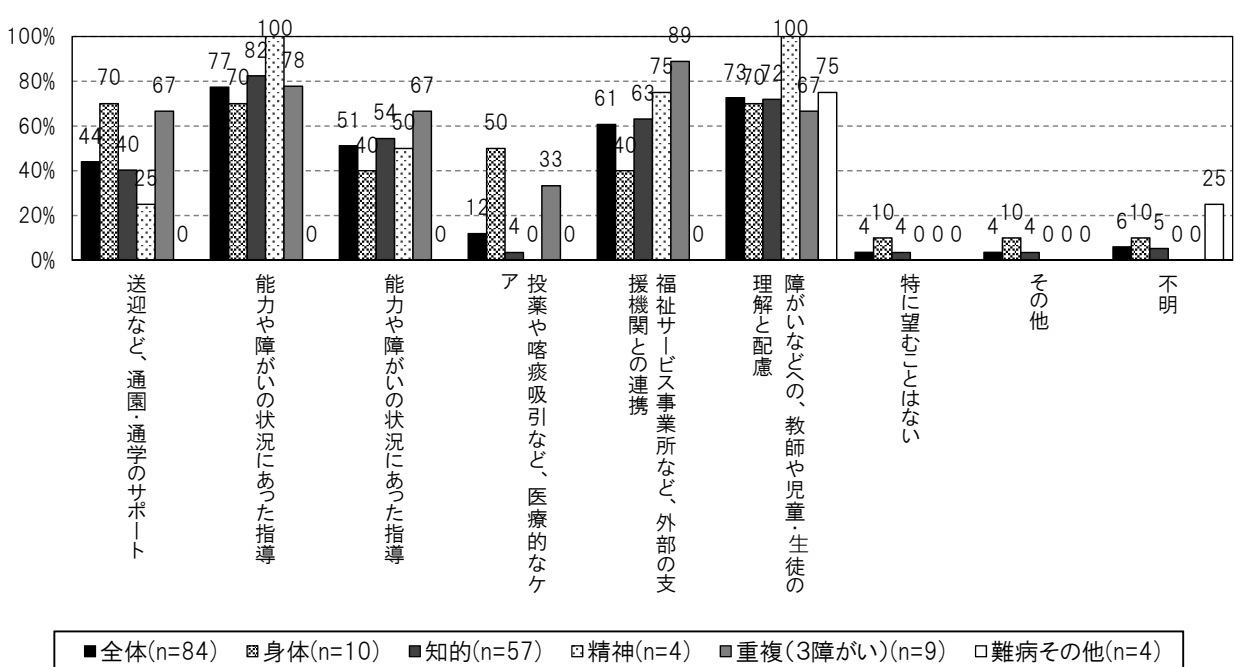
通園・通学して困ることでは、身体障がい児、知的障がい児では「通うのが大変」、精神障がい児では「まわりの生徒たちの理解が得られない」、重複障がい児では「介助体制が十分でない」「通常の学級に入れてもらえない」、難病その他では「先生の理解や配慮が足りない」が最も多くなっています。

また、幼稚園・学校などに望むことについて、全体では「能力や障がいの状況にあった指導」「障がいなどへの、教師や児童・生徒の理解と配慮」が7割以上と多くなっています。

【通園・通学して困ること】



【幼稚園・学校などに望むこと】



3. 障害児福祉サービスについて

全体でみると、内容の認知度では③放課後等デイサービスが8割以上で高くなっており、利用状況では、③放課後等デイサービス④障害児相談支援が多くなっています。今後の利用予定では、現在利用のない⑤居宅訪問型児童発達支援や⑦福祉型障害児入所施設においても、利用意向が見受けられます。

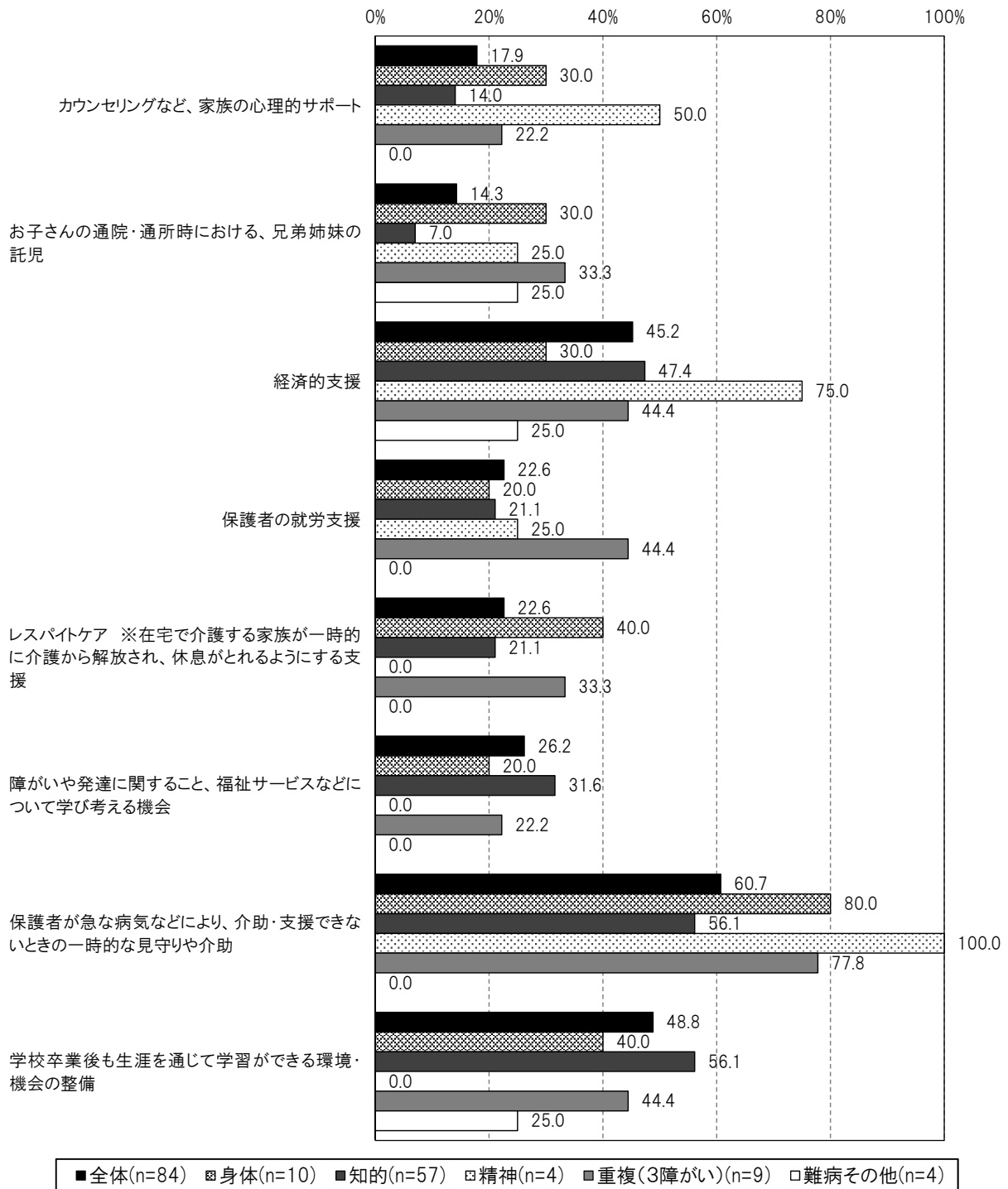
【障害福祉サービスの認知度等について】

	全体 (n=84)					身体 (n=10)			知的 (n=57)			精神 (n=4)			重複 (3障がい) (n=9)			難病その他 (n=4)		
	内容 認知	利用中 (%)	利用中 (人)	利用予定 (%)	利用予定 (人)	内容 認知	利用 中	利用 予定	内容 認知	利用 中	利用 予定	内容 認知	利用 中	利用 予定	内容 認知	利用 中	利用 予定	内容 認知	利用 中	利用 予定
①児童発達支援	66.7	22.6	19	19.0	16	80.0	20.0	20.0	68.4	21.1	15.8	50.0	25.0	25.0	77.8	44.4	44.4	0.0	0.0	0.0
②医療型児童発達支援	29.8	1.2	1	4.8	4	30.0	0.0	20.0	31.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0
③放課後等デイサービス	83.3	58.3	49	61.9	52	80.0	40.0	50.0	89.5	63.2	66.7	100.0	75.0	75.0	77.8	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0
④障害児相談支援	58.3	45.2	38	51.2	43	60.0	50.0	60.0	57.9	45.6	50.9	100.0	75.0	75.0	66.7	44.4	55.6	0.0	0.0	0.0
⑤居宅訪問型児童発達支援	11.9	0.0	0	7.1	6	10.0	0.0	30.0	12.3	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
⑥保育所等訪問支援	27.4	1.2	1	8.3	7	20.0	0.0	20.0	33.3	1.8	5.3	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
⑦福祉型障害児入所施設	22.6	0.0	0	6.0	5	20.0	0.0	20.0	24.6	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
⑧医療型障害児入所施設	27.4	6.0	5	6.0	5	60.0	40.0	40.0	22.8	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0

4. 保護者の方自身が、特に支援して欲しいことについて

保護者の方自身が支援して欲しいことについて、全体では「保護者が急な病気などにより、介助・支援ができないときの一時的な見守りや介助」が60.7%と最も多く、次いで「学校卒業後も生涯を通じて学習ができる環境・機会の整備」が48.8%となっています。

【保護者の方自身が、特に支援して欲しいこと】



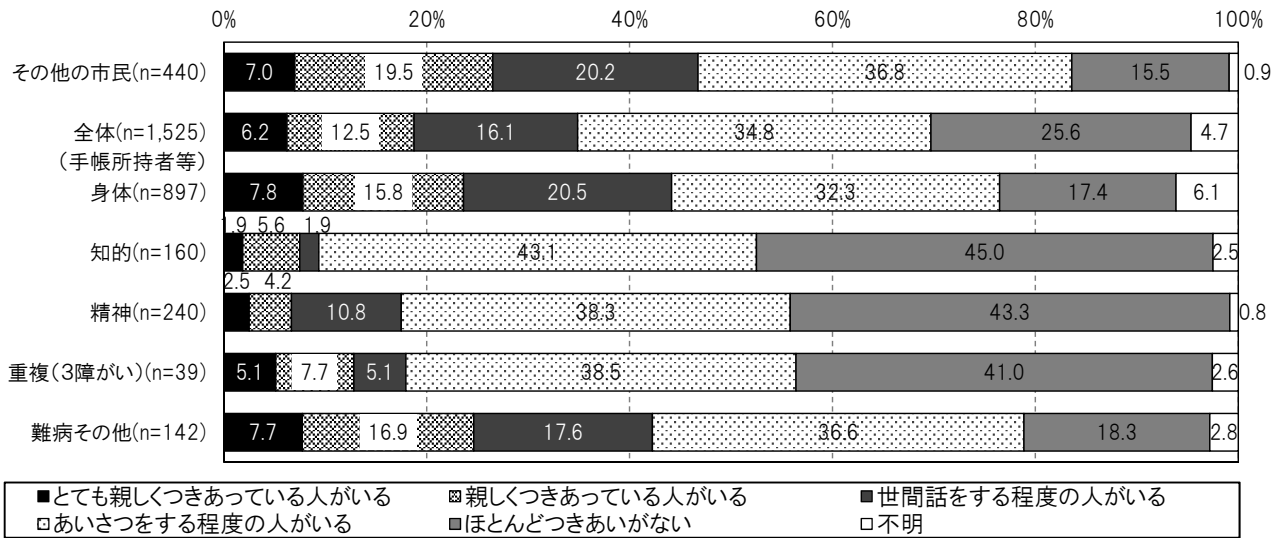
■ その他の市民への調査結果の概要

1. 障がいのある方への関心等について

1) 地域でのつきあいについて

地域の人とのつきあいでは、その他の市民では「あいさつをする程度以上」が8割を超えています。手帳所持者等の全体では約7割となっています。手帳所持者等では、「親しくつきあっている人がある」が少なく、「ほとんどつきあがない」が多くなっています。

【地域でのつきあいについて】

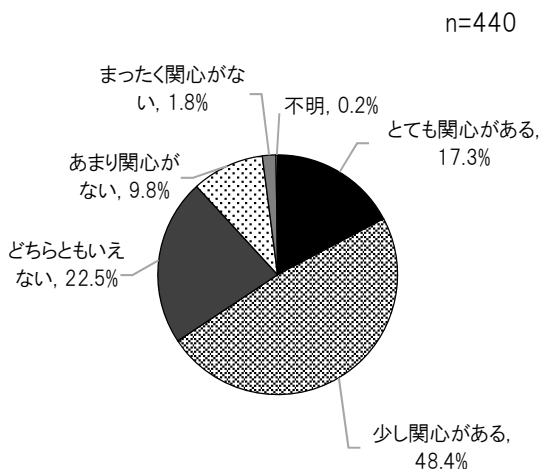


2) 障がいのある方への関心や障がい者との接する機会について

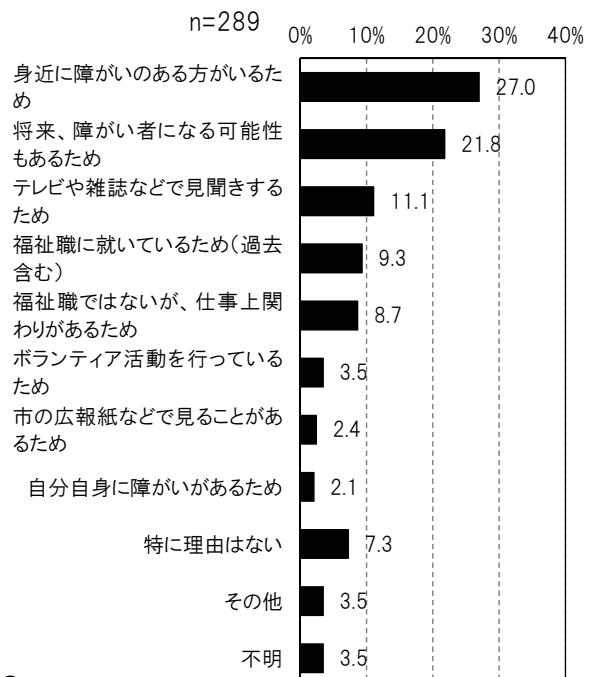
障がいや障害のある方の福祉への関心は、「少し関心がある」が約5割と最も多く、関心がある理由では、「身近に障がいのある方がいるため」が3割弱と最も多くなっています。

障がいのある方と接する機会では、約5割の方が年に数回以上あり、接する機会では、「家族など身近な親族」が3割強、「自分の職場」が3割弱、「近所」が2割弱などとなっています。

【障がい福祉への関心】

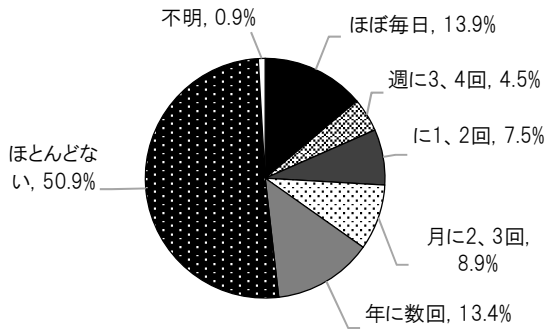


【障がい福祉へ関心がある理由】



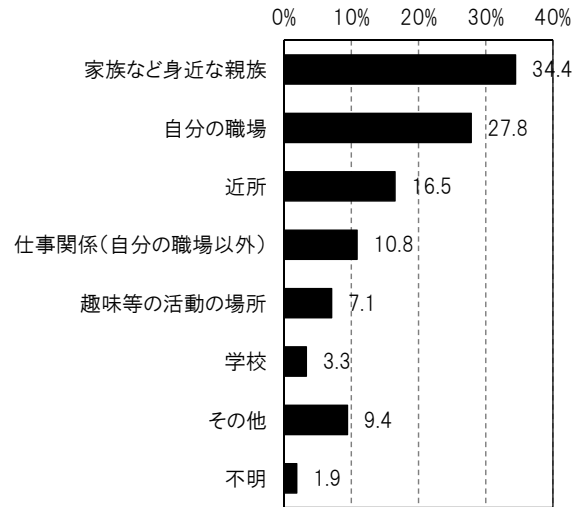
【障がいのある方と接する機会（回数）】

n=440



【障がいのある方と接する機会（場面）】

n=212



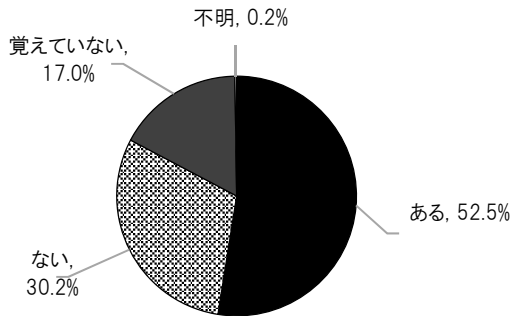
3) 助け合いについて

障がいのある方に手助けをしたことがあるかについては、約5割の方が「ある」と回答しています。手助けの内容については、「席をゆずった」が5割以上と最も多く、次いで「車いすを押したり、持ち上げたりした」が4割弱、「横断歩道や階段で手をかした」が約3割となっています。

障がいのある方が近くで生活されるようになったらどう思うかについては、「気にかけて困っていれば手助けしたい」が6割以上と最も多くなっています。

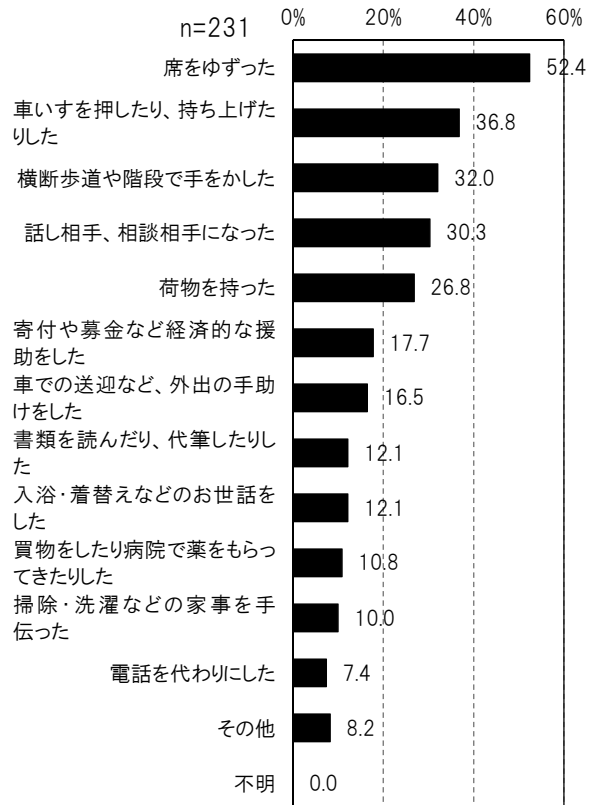
【障がいのある方に手助けをしたことがあるか】

n=440



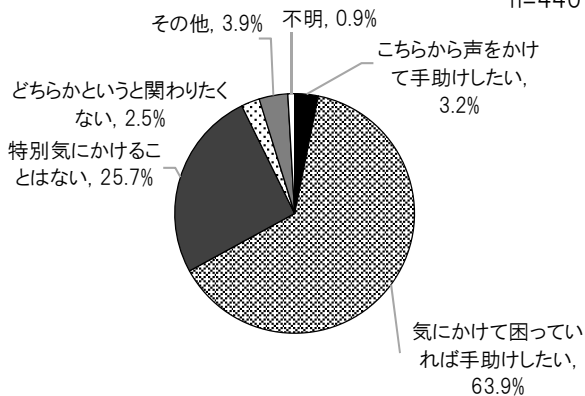
【手助けの内容】

n=231



【障がいのある方が近くで生活されるようになった時】

n=440



2. 障がいのある方の人権等について

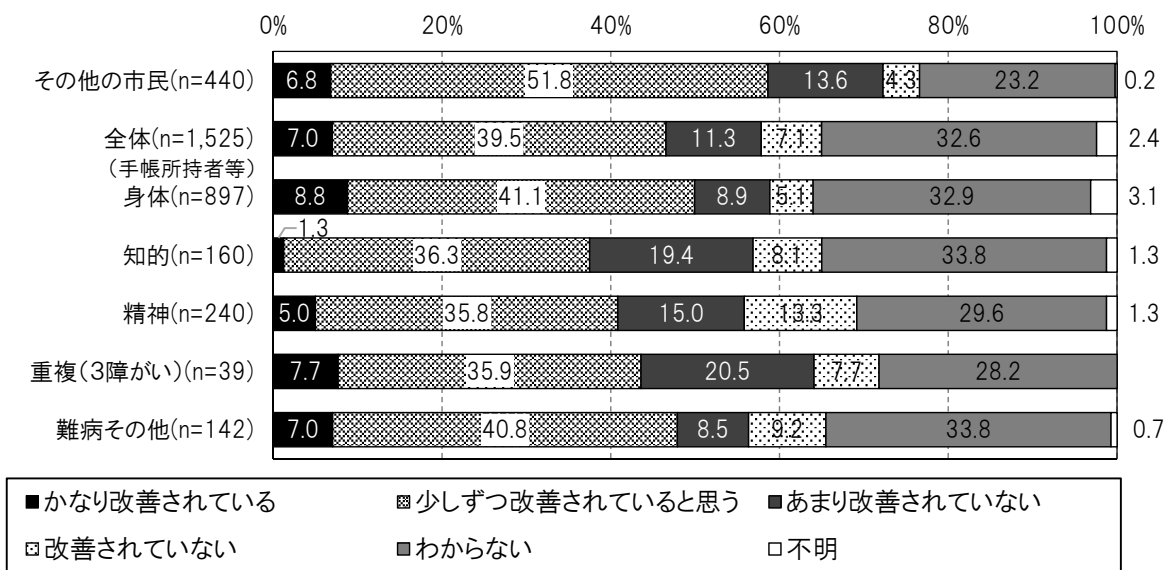
1) 差別や偏見について

障がいのある方に対する差別や偏見については、その他の市民では6割弱の方が「改善されている（かなり＋少しずつ）」と回答していますが、手帳所持者等の全体では5割弱となっています。

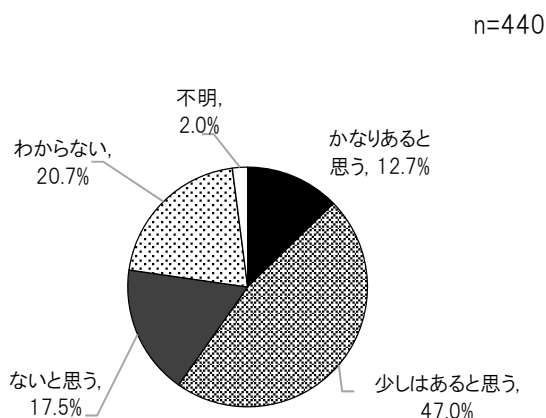
身のまわりで障がいを理由とする差別や偏見があると思うかでは、「少しはあると思う」が5割弱と最も多く、1割強の方は「かなりあると思う」と回答しています。

特に人権上問題があると思われることでは、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も多く、「差別的な発言や行動をすること」、「障がいを理由とした『いじめ』があること」などが多くなっています。

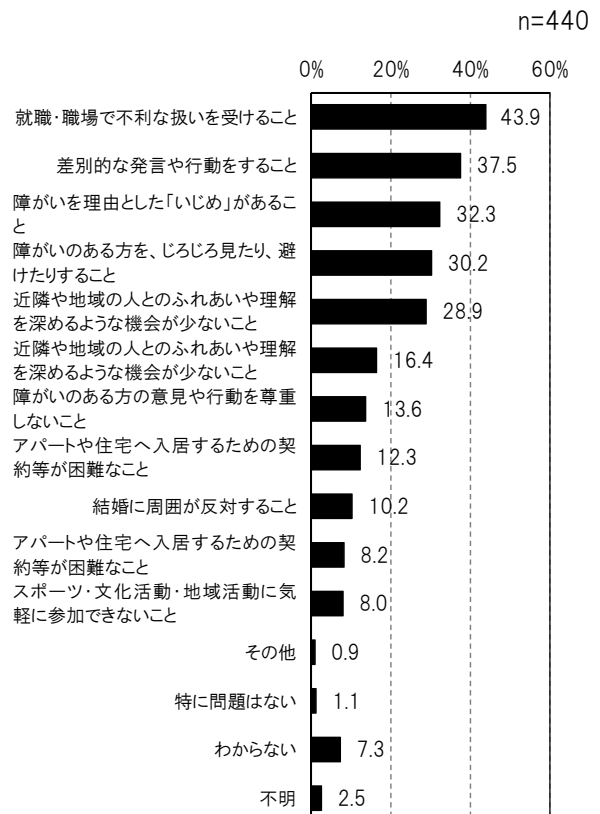
【障がいのある方に対する差別や偏見について】



【障がいを理由とする差別や偏見について】



【特に人権上問題があると思われること】

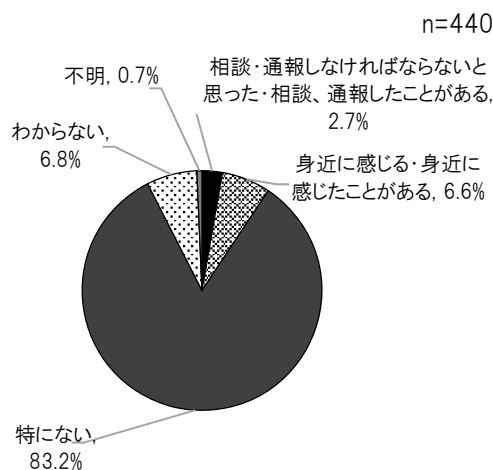
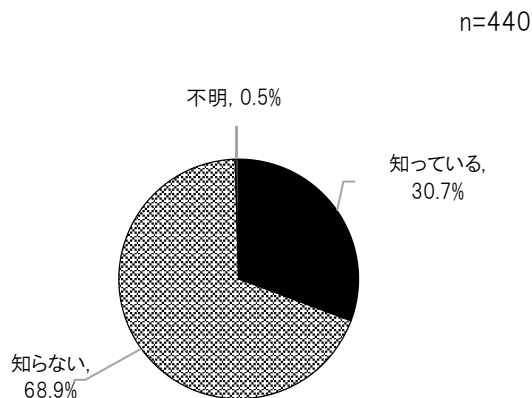


2) 虐待について

障害者虐待防止法について、「知っている」は約3割となっています。障がいのある方への虐待を相談・通報しなければならないと思ったり、身近に感じることはあるかについては、「特にない」が8割以上と最も多くなっていますが、「身近に感じる・身近に感じたことがある」が6.6%あり、「相談・通報しなければならないと思った・相談、通報したことがある」が2.7%あります。

【障害者虐待防止法の認知度】

【虐待を身近に感じることはあるか】



3. 障がいへの理解等について

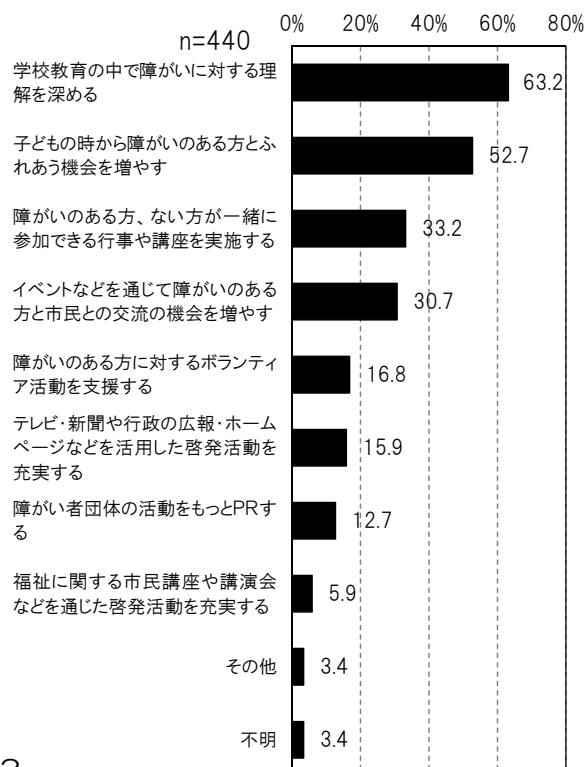
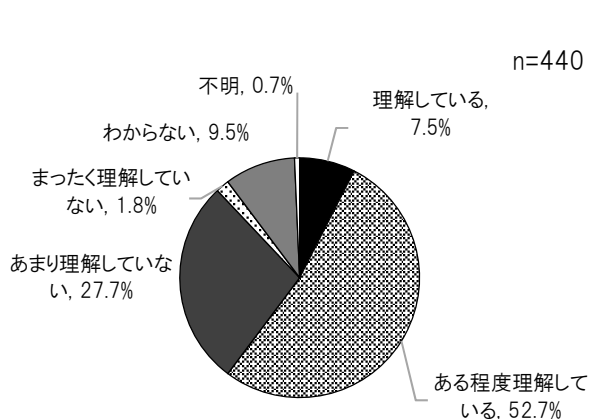
1) 障がいに対する理解について

障がいに対する自身の理解については、「ある程度理解している」が約5割と最も多くなっており、「理解している」と合わせると約6割となっています。

障がいのある方に対する理解を深めるために必要な取り組みは、「学校教育の中で障がいに対する理解を深める」が約6割と最も多く、次いで「子どもの時から障がいのある方とふれあう機会を増やす」が約5割となっています。

【障がいに対する自身の理解】

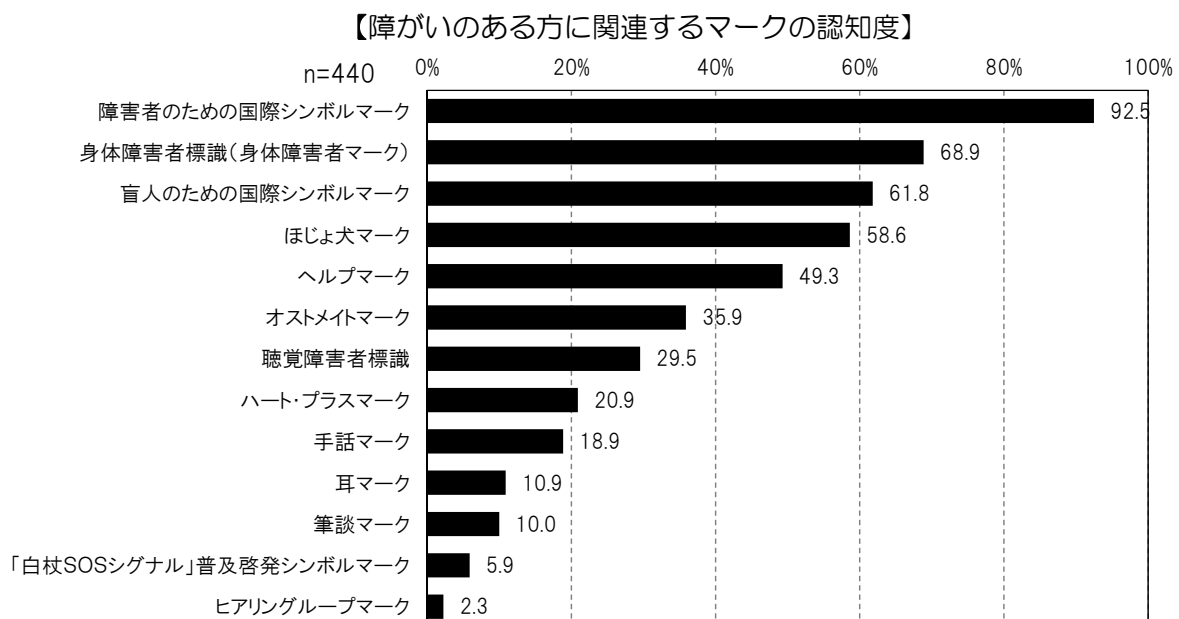
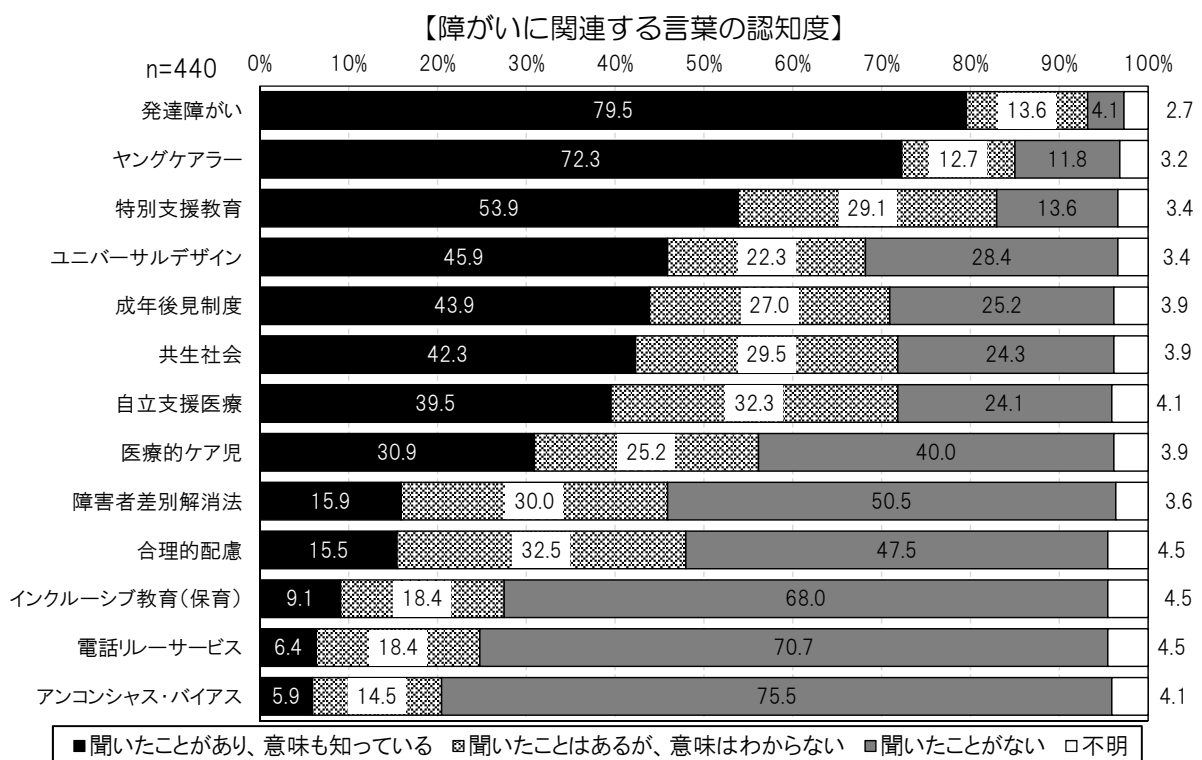
【理解を深めるために必要な取り組み】



2) 障がいに関連する言葉やマークの認知度について

障がいに関連する言葉に関する認知度では、「発達障がい」「ヤングケアラー」「特別支援教育」については半数以上の方が意味を知っている状況となっておりますが、「障害者差別解消法」「合理的配慮」「インクルーシブ教育（保育）」「電話リレーサービス」「アンコンシャス・バイアス」について意味を知っている方は2割以下となっております。

また、障がいのある方に関連するマークの認知度では、「障害者のための国際シンボルマーク」は9割以上の方が意味を知っている状況となっており、「身体障害者標識（身体障害者マーク）」、「盲人のための国際シンボルマーク」、「ほじょ犬マーク」では5割以上の方が意味を知っている状況となっております。一方、「手話マーク」、「耳マーク」、「筆談マーク」「白杖 SOS シグナル」普及啓発シンボルマーク、「ヒアリンググループマーク」について意味を知っている方は2割以下となっております。



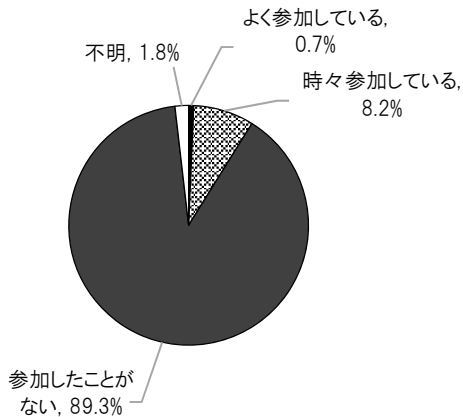
4. ボランティアについて

障がいのある方に対するボランティアへの参加状況は、「参加したことがない」が約9割となっています。今後の参加意向については、「参加したい(ぜひ+できれば)」が約2割となっています。

参加したい活動内容では、「施設に行って障がいのある方とレクリエーション活動などをする」が約5割と最も多く、次いで「障がいのある方が外出する時の付き添いをする」が約3割となっています。

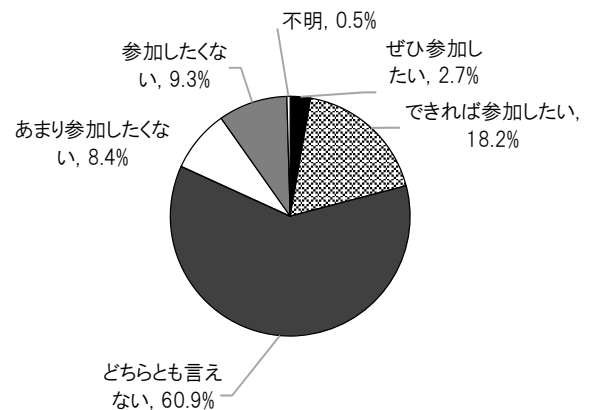
【ボランティアへの参加状況】

n=440



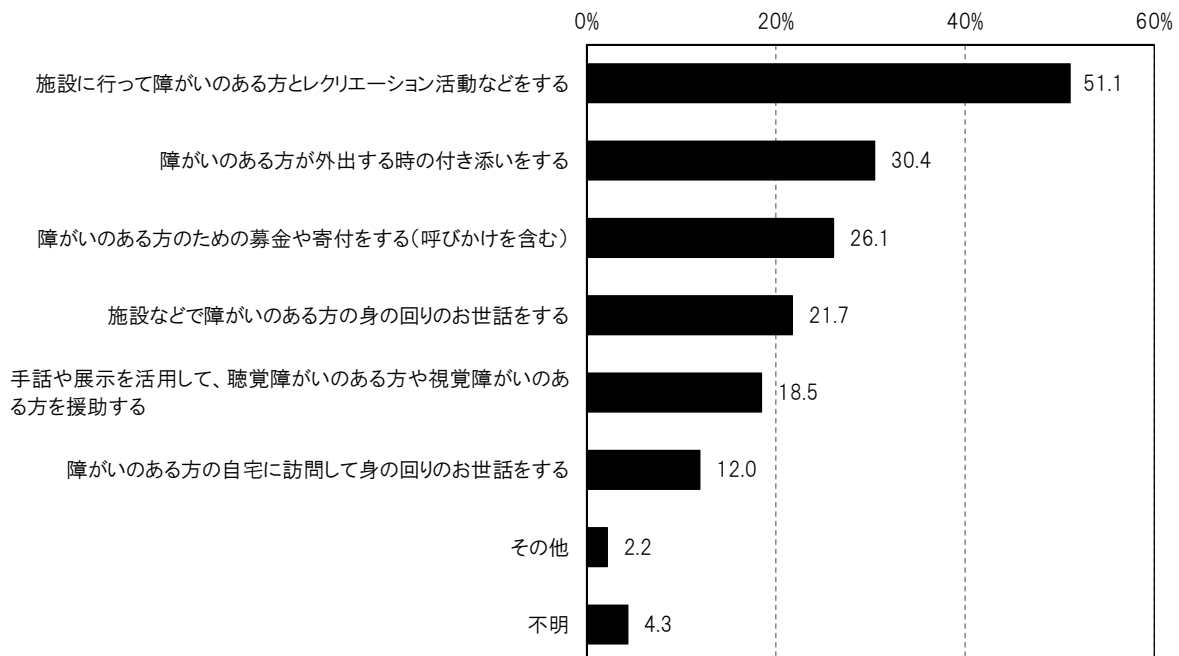
【ボランティアへの参加意向】

n=440



【参加したいボランティア活動】

n=92

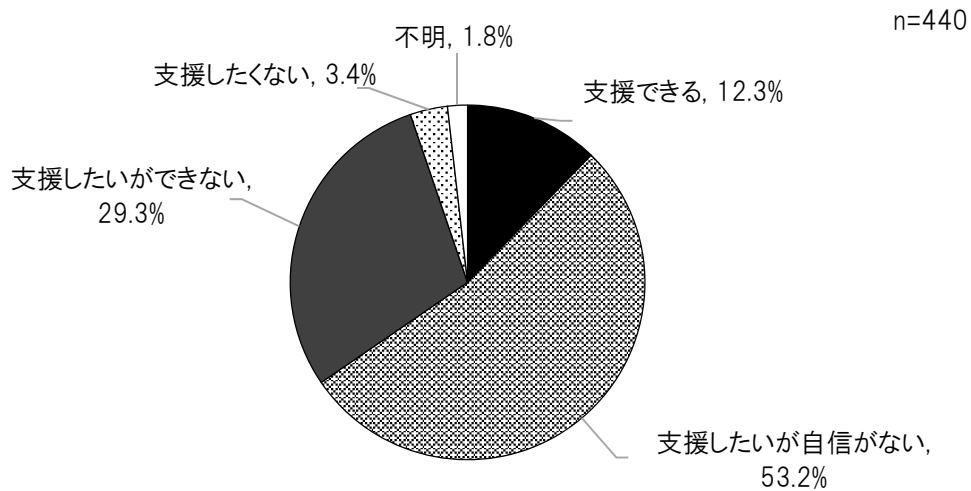


5. 災害時の対応について

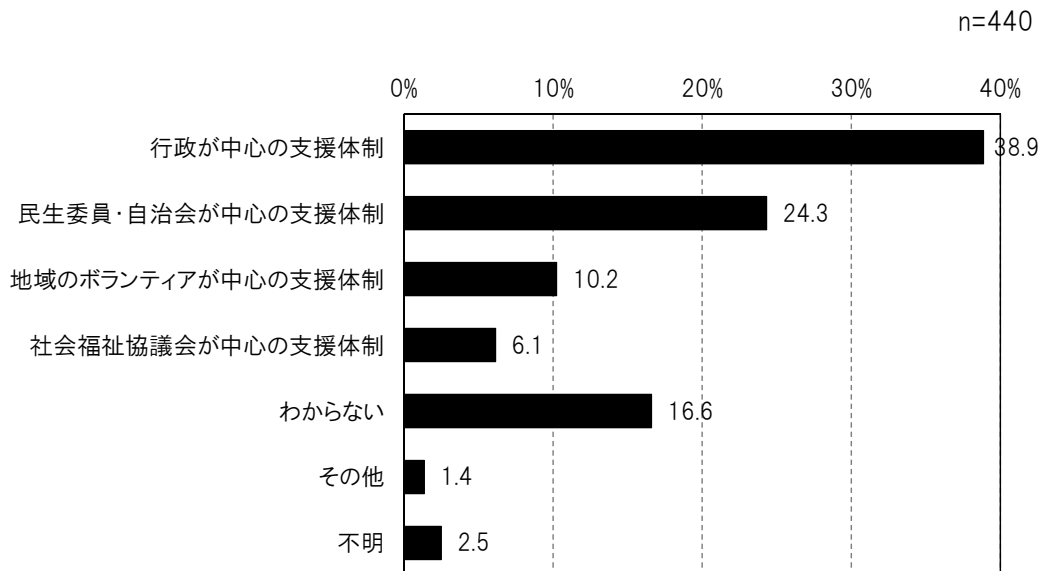
災害発生時に要支援者の避難を支援できるかについては、「支援したいが自信がない」が5割以上と最も多く、「支援できる」は約1割となっています。

災害時や緊急時に障がいのある方に対して避難支援や安否確認などの支援を行うために必要な体制としては、「行政が中心の支援体制」が約4割と最も多く、次いで「民生委員・自治会が中心の支援体制」が2割強となっています。

【災害発生時に要支援者の避難を支援できるか】



【災害時や緊急時に必要な支援体制】

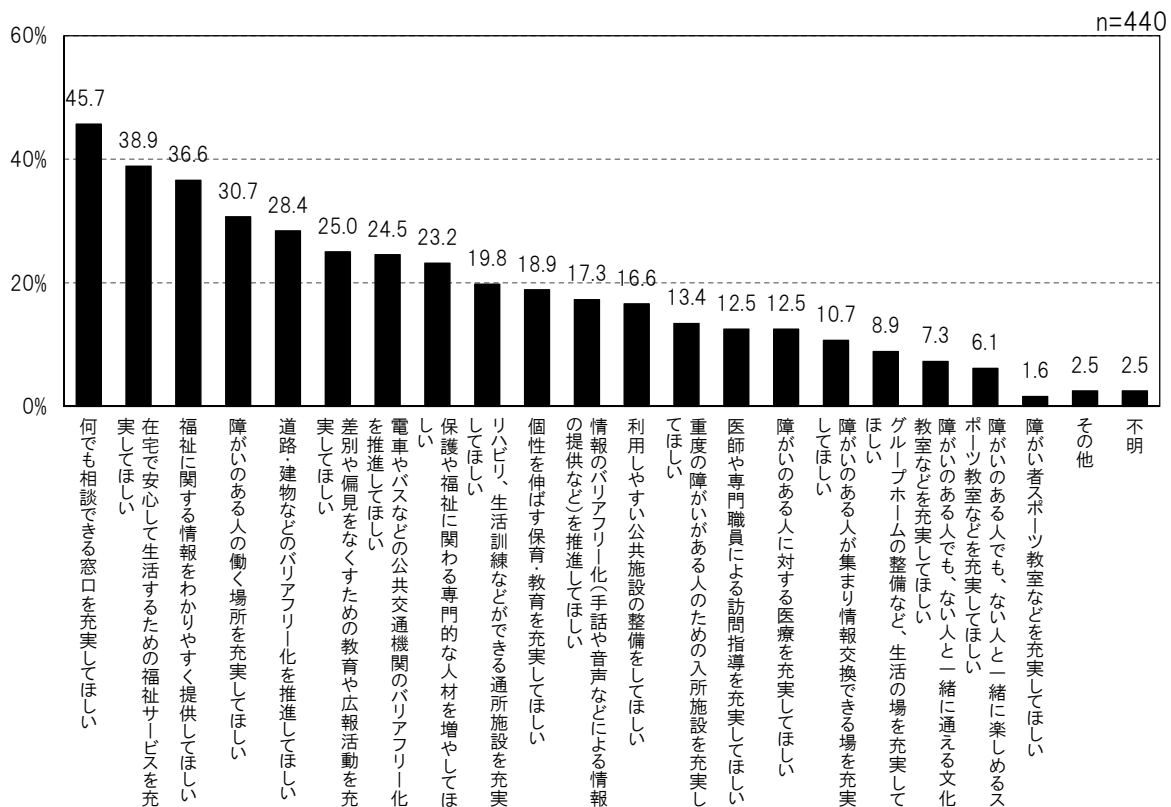


6. まちづくりについて

障がいのある方にとって暮らしやすいまちづくりのために行政が力を入れるべきことは、「何でも相談できる窓口を充実してほしい」が4割以上と最も多く、次いで「在宅で安心して生活するための福祉サービスを充実してほしい」、「福祉に関する情報をわかりやすく提供してほしい」、「障害のある人の働く場所を充実して欲しい」が3割以上と多くなっています。

また、障がいのある方のために企業などが行うべき活動としては、「障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備」が約6割と最も多く、「障がいのある方の雇用の促進」も5割を超えて多くなっています。

【障がいのある方にとって暮らしやすいまちづくりのために行政が力を入れるべきこと】



【障がいのある方のために企業など(会社や民間団体など)が行うべき活動】

